豊富村埋蔵文化財調査報告第９集

山梨県東八代郡豊富村

平成14・15年度
村内遺跡発掘調査報告書

2004

豊富村教育委員会

豊富村埋蔵文化財調査報告第９集

山梨県東八代郡豊富村

平成14・15年度
村内遺跡発掘調査報告書

2004

豊富村教育委員会

序

豊富村は、甲府盆地の南部に位置し、北西を流れる笛吹川と東南に連なる御坂山塊の間に開けた山川に囲まれた自然にあふれる村です。

また村の大半を占める曽根丘陵地帯には、古代遺跡が多数点在していますし、古代・中世の仏像や近世の信仰の証しである石造物をはじめ、天然記念物の樹木等、住人によって現在まで大切に守られてきた遺跡や文化財があり、まさに文化財の宝庫といってよいでしょう。

このような土地柄でありますが、近年、各種公共事業や民間の開発も盛んになってきました。それに伴い、遺跡調査の機会も年ごとに増してきています。

本報告書は、平成14年度及び15年度に豊富村内で実施された各種開発に伴う埋蔵文化財有無の確認調査をまとめたものです。

前田遺跡では、古墳の石室といった貴重な発見もあり、古墳時代の豊富村の歴史を語る上での好資料となることでしょう。

また、高部宇山平遺跡では方形周溝墓と思われる溝の中から、大小１個ずつの壺が発見されています。

このようにいにしえの豊富村を垣間見る資料が調査の過程で見つかっております。

なお、今回の調査にあたり、ご指導・ご協力をいただきました地元地権者の方々をはじめ、関係各位に厚く感謝申し上げます。

本報告書が今後、有意義に活用されることを希望いたします。

2004年８月31日

豊富村教育委員会

教育長　萩　原　保　正

例　　言

1．本書は平成14・15年度に山梨県東八代郡豊富村内で発掘された遺跡調査の報告書である。
2．発掘調査及び出土品の整理は、豊富村教育委員会が実施した。
3．本書における出土品及び記録図面・写真は豊富村教育委員会が保管している。
4．本報告書の執筆・編集・写真撮影は岡野が行った。
6．本調査にあたり、山梨県教育庁学術文化財課及び豊富村各区の住民の皆様、地権者の皆様のご指導、ご理解をいただきながら調査を進めることができた。心から謝意を表する次第である。
7．発掘調査・出土品の整理及び報告書の作成については、次の方からご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。（敬称略）
新津健・出月洋文・吉岡弘樹・保坂和博（山梨県教育庁学術文化財課）、中山誠二（山梨県教育庁学術文化財課博物館建設室）、末木健・八巻与志夫・山本茂樹・今福利恵（山梨県埋蔵文化財センター）、小野正文（山梨県立考古博物館）、林部光（中道町教育委員会）、野崎進（境川村教育委員会）、伊藤修二（八代町教育委員会）、望月和幸（御坂町教育委員会）、小渕忠秋・阿部勲（石和町教育委員会）、瀬田正明・望月秀明（一宮町教育委員会）、宮澤公雄・櫛原功一（帝京大学山梨文化財研究所）

調　査　組　織

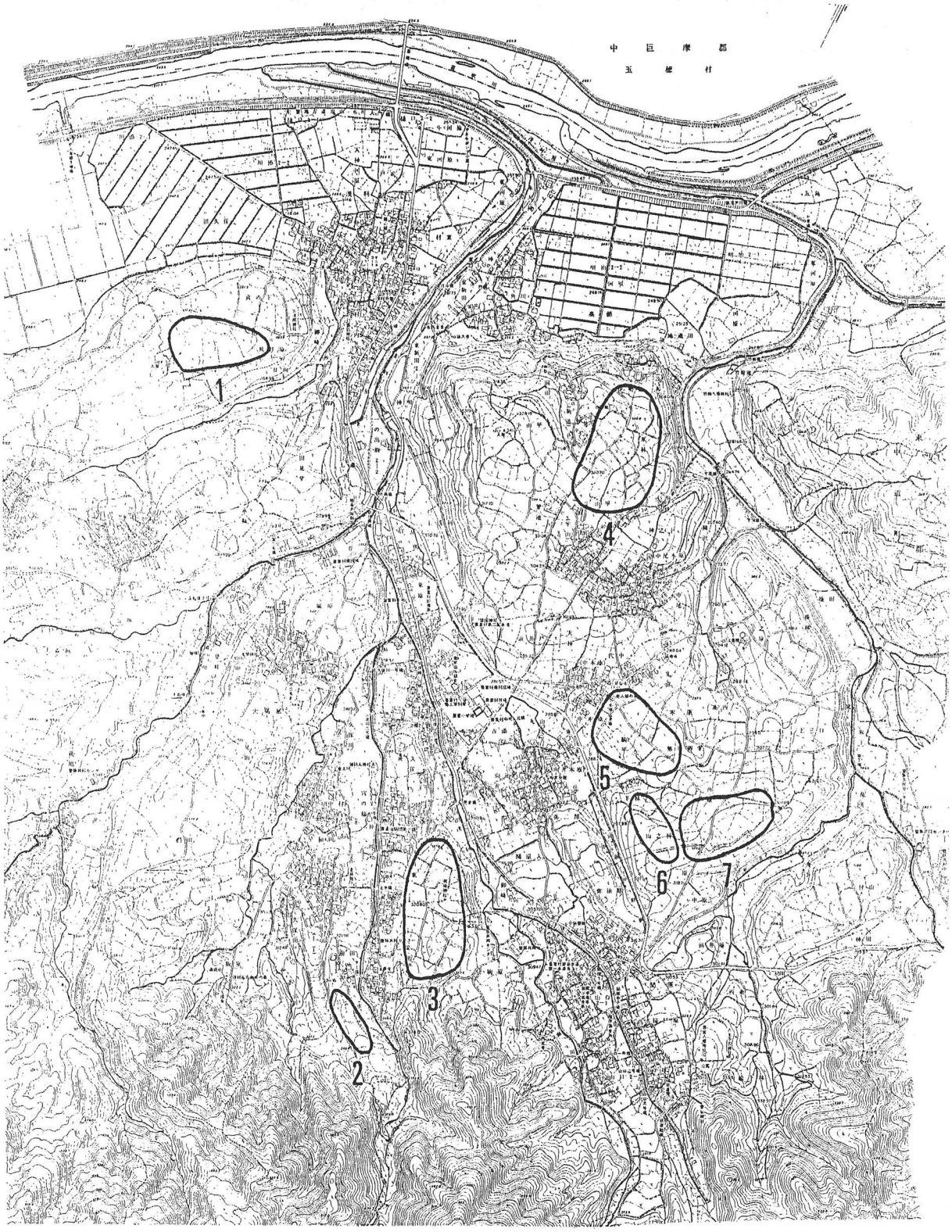
調査主体　豊富村教育委員会
調査担当者　岡野秀典（豊富村教育委員会文化財担当）
事務局　萩原保正（教育長）・相原勝仁（教育課長・14年度）・長田茂夫（教育課長・15年度）・中込誉（教育係長・14年度）・小沢誠（教育係長・15年度）・大久保賀子・岩間賢・岩下昭吾・大村美香（平成14年度）・薬袋寿子（平成15年度）
調査・整理参加者　河野紀久代・桜井幸子・塚田よ志江・中沢浦子・中楯紀男・村松みどり・山口満智子

目　　次

序
例言・調査組織
目次
第1章　平成14・15年度の調査概要……1
第2章　前田遺跡の調査……3
第3章　高部宇山平遺跡の調査……10
第4章　駒平遺跡の調査……14
第5章　横畑遺跡の調査……16
第6章　前田遺跡の調査……21
第7章　熊野原遺跡の調査……26
第8章　原遺跡・東原遺跡の調査……30
写真図版

第1章　平成14・15年度の調査概要

No.	収遺跡名	ふりがな	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因	主な時代	主な遺構	主な遺物
			山梨県東八代郡豊富村	19328							
1	前田	まえだ	大鳥居1025、1027		県 20020 村 48	2003.3.10 ～ 2003.3.20	140.2	農業基盤整備事業	縄文・古墳	縄文時代早期の土坑・古墳石室	縄文土器・石器・土師器・黒曜石
2	高部宇山平	たかべうやまだいら	高部1536		県 20009 村 3	2003.7.17 ～ 2003.7.18	14.0	個人住宅	弥生	方形周溝墓	弥生土器
3	駒平	こまだいら	木原25-1		県 20001 村 11	2003.7.22	4.5	個人住宅	縄文	なし	縄文土器
4	横畑	よこばたけ	大鳥居3560-4		県 20021 村 46	2003.8.20	12.0	個人住宅	縄文・古墳・中近世	土坑・小穴	縄文土器・土師器・寛永通宝
5	前田	まえだ	大鳥居1025他		県 20020 村 48	2003.11.27 ～ 2003.12.2	141.0	農業基盤整備事業	縄文・古墳・近世	古墳周溝	土師器・須恵器・陶磁器・黒曜石
6	熊野原	くまのはら	浅利2531、2696 2700、2701		県 20011 村 30	2004.2.16 ～ 2004.2.21	164.0	農業基盤整備事業	縄文・弥生・古墳	溝	弥生土器・土師器・黒曜石
7	原・東原	はら・ひがしはら	関原990-1他・木原271	原	県 20024 村 17	2004.2.25 ～ 2004.2.26	174.0	公園造成	縄文・中近世	なし	縄文土器・陶磁器
				東原	県 20025 村 16						



1 熊野原遺跡　2 前田遺跡　3 横畑遺跡　4 高部宇山平遺跡
5 駒平遺跡　6 原遺跡　7 東原遺跡

第1図　調査遺跡分布図

第２章　前田遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字前田に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から舌状に張り出した曽根丘陵の一角である山裾の台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は234㎡である。

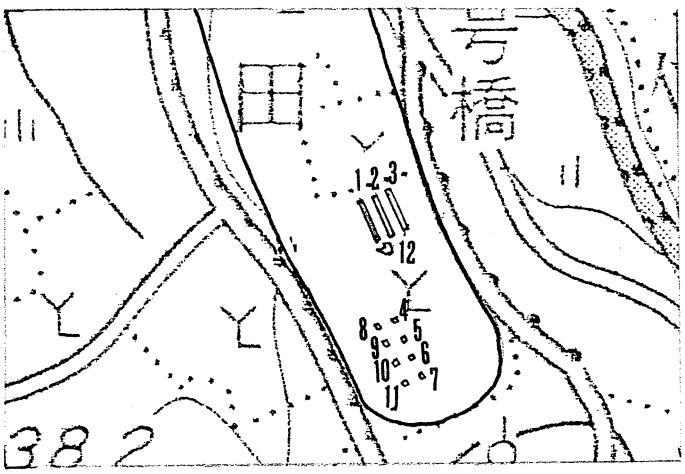
平成15年３月10日　発掘調査を開始
平成15年３月20日　発掘調査を終了
平成15年３月25日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出
平成15年３月29日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて２×２～16ｍの試掘坑やトレンチを12か所設定し、それぞれに１～12区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは20～50cm前後である。

なお、第１～３区付近では、第Ⅲ層のソフトロームは見られなくなり、耕作により削平を受けたものと思われ、第Ⅱ層の下部に第Ⅳないし第Ⅴ層が表面に見えている。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　褐色土（Ⅴ層の土がブロック状に混入）
第Ⅲ層　黄褐色ローム　　第Ⅳ層　暗黄褐色ローム
第Ⅴ層　明黄色ローム（いわゆる鹿沼土）



第２図　調査区位置図（1/2,500）

第３節　検出した遺構と遺物

(1)　第１区の遺構と遺物

１号土坑

第１区の南側で確認され、東側が調査区外であったために70cm拡張して土坑の全面を検出した。平面プランは、楕円形であり、東西幅146cm、南北幅120cm、深さ30cmであり、床面は平坦である。覆土は黒褐色土、黄褐色土、褐色土の３層である。出土遺物は、縄文時代早期の土器が数点出土した。また、長さ15cm前後の礫が２点ほど見つかっている。

１は貝殻腹縁文を施したいわゆる田戸上層式、２は沈線文、３は刺突を１列に配す。

(2)　第２・９区の遺構と遺物

４は第２区のⅠ層より出土したもので、古墳時代前期の高坏接合部である。接合部径3.2cm、色調は橙褐色である。外面はハケメ、坏部内面はミガキ、脚部内面はナデ調整である。５は第９トレンチのⅠ層より出土したもので、縄文時代早期の土器破片で、波状の押型文を施す。

(3)　第12区の遺構と遺物

１号石室

第12区内で確認されたものである。はじめ、２×２ｍの試掘坑を設定して掘り下げ、遺構らしきものが確認されたので、遺構プラン全面を検出するように順次拡張していき、最終的に図のような調査区プランとなった。この調査区を設定した地は、古墳の墳丘らしき特別な高まりは見られず、偶然に設定したものである。

１号石室は、石室の主軸方位はN－47－Eで、床面海抜高度は350.4ｍ。西側に開口するが、これは当地が西側に傾斜し下がっていくという地形に影響されたものと思われる。奥壁部と側壁基底部の一部の礫が残るのみで、耕作のために削平を受けたらしく、石室を構成する礫は、ほとんど消失している。そのために石室構築当初、何段の石積みが構築されていたかは不明である。したがって、本石室が無袖か片袖かといった形態も不明である。しかしながら石室の掘り方の規模、礫の配列具合から推察すると、無袖式石室であったのではないかと考える。

掘り方は、東壁より290cmのところで削平を受けている感じを受けたが、ちょうどそのあたりで、北西コーナーらしき曲がりを確認できたので、掘り方の全長としては290cmとしてよいと思われる。幅は170cmである。深さは10～15cmほどである。床面には石は敷かれていなかった。

石室の礫は奥壁に４つ、西側の側壁に２つ残り、東側の側壁には残存していなかった。礫の大きさは、長さ25～35cm、幅15～20cm程度で根石としては小さい。

副葬品としては、掘り方中央部の床面直上より５つの管玉が出土した。６は碧玉製で、長さ2.4cm、直径0.7cm、孔径0.1～0.4cm。色調は濃緑色。７は碧玉製で、長さ2.7cm、直径0.55cm、孔径0.3cm。色調は薄れた濃緑色。８は碧玉製で、長さ2.3cm、直径0.7cm、孔径0.1～0.2cm。色

調は濃緑色。9は碧玉製で、長さ1.3cm、直径0.9cm、孔径0.15cm。色調は濃緑色。片方の面に剥離痕が残り、未研磨である。10は緑色凝灰岩製で、長さ2.2cm、直径0.5cm、孔径0.1～0.3cm。色調は灰緑色。

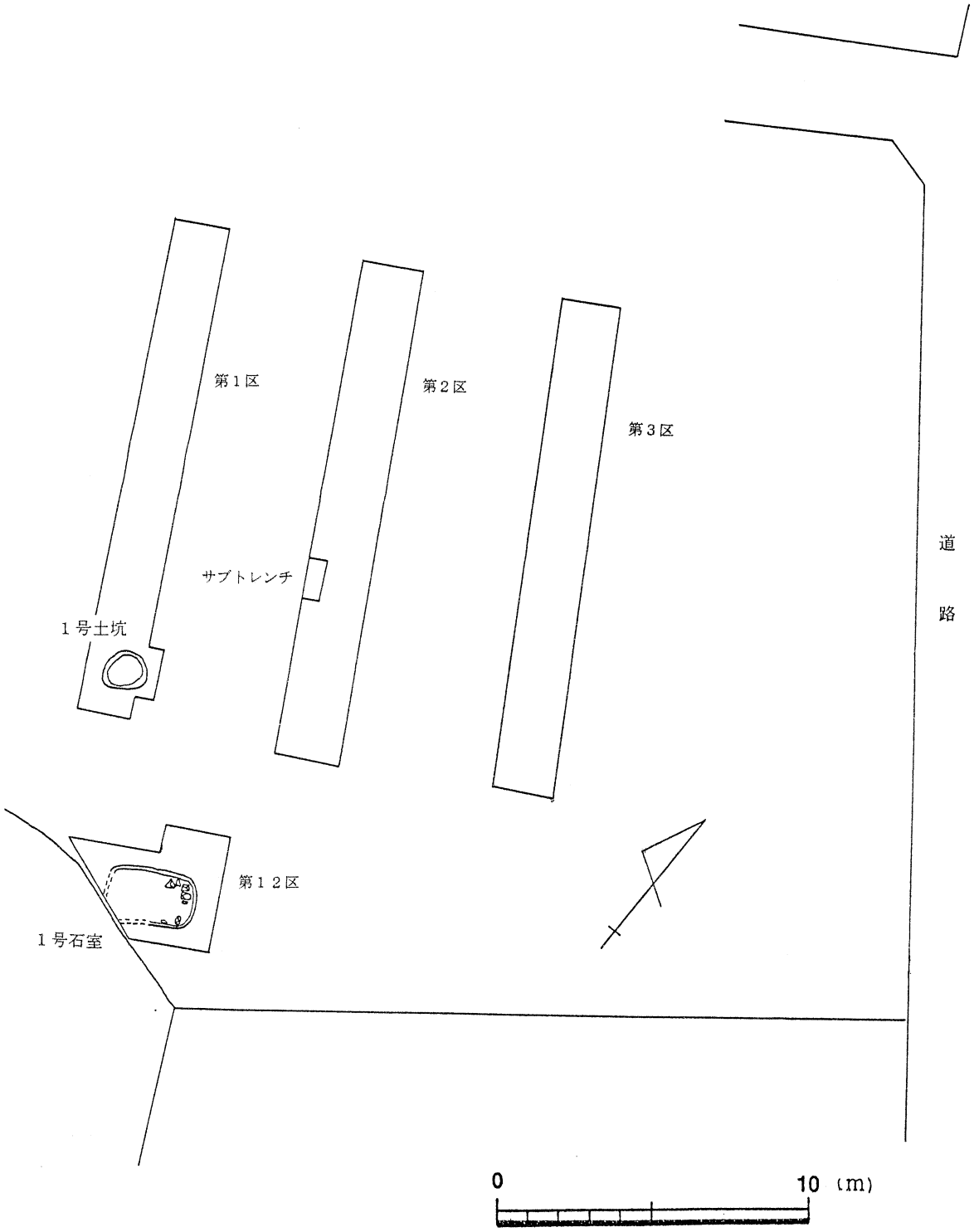
また、石室掘り方覆土内より縄文時代の遺物が混入しており、11は縄文時代早期の土器で口縁部破片である。櫛歯状工具による条線をたて及び横方向に引き、また、刺突文も見られる。12は黒曜石製の石鏃で、長さ1.1cm、幅1.0cm、厚さ0.3cmである。

第4節　まとめ

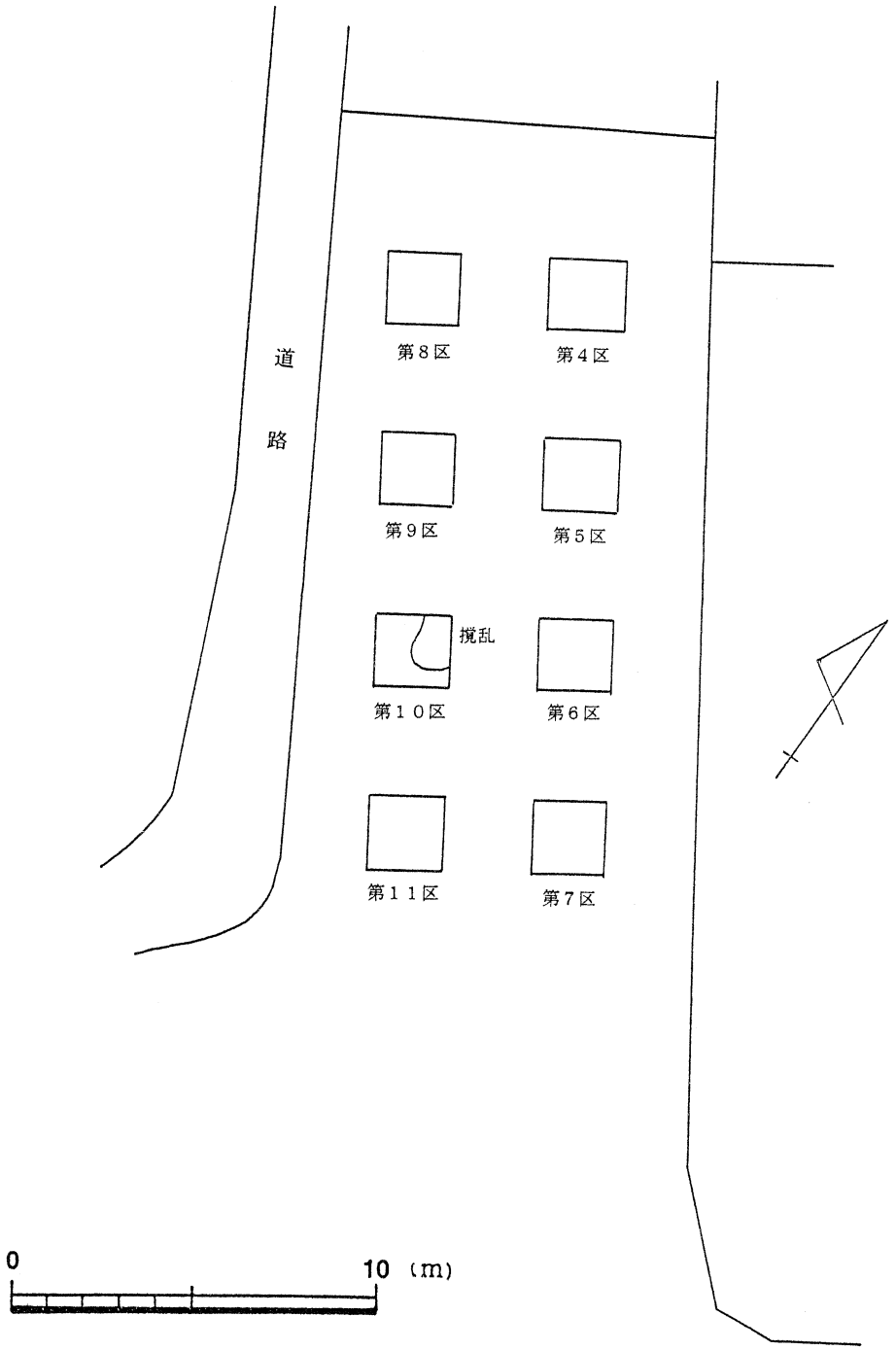
調査の結果、縄文時代早期の土坑1基、古墳の石室1基が発見された。この地域は、これまで発掘調査を行う機会がなく、包蔵地ではあったものの詳しいデータがなく、さほど注目されるような地域ではなかった。しかし、今回、調査を実施した結果、貝殻腹縁文が施されたいわゆる田戸上層式や縄文時代早期の土器が遺構に伴って出土したことは大きな成果といえるだろう。また、押型文土器も出土するなど、これまで豊富村でほとんど見つかることがなかった縄文時代早期の土器がこの遺跡で見つかったことは、この時期にこのあたりで人々が生活していた証であり、豊富村の歴史を解明する上で貴重な発見といえるだろう。

また、古墳の石室が山裾に近いこの遺跡から発見されたことも驚きであった。豊富村内では、これまで宇山平や三星院裏山の上野原台地など4つの限られた地域で古墳群が形成されていることがわかっており、その他古墳と思われる小丘が散発的に築かれた程度である。確かに、前田遺跡より北東に約450m下っていった台地に鎮座する御崎社の拝殿の小丘は、おみさきさん古墳という古墳とされており、その古墳を取り囲む地域は横畑遺跡であり、古墳時代前・後期の遺物もいくつか出土している。したがって、よくよく考えてみると、前田遺跡を取り囲むこの一帯の歴史的環境からすれば、今回発見された古墳の存在は不思議ではなく、むしろ、当然あった集落の首長の墓域の一部を発見したということになる。したがって今後の課題は、居住域の発見ということになろう。

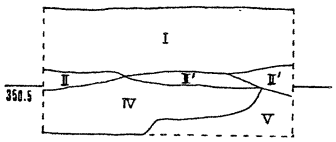
古墳の年代は、石室内から管玉5点が出土した以外、土器など年代を明らかにするような遺物は出土しなかったので、不明といわざるを得ないが、石室が無袖で、規模も縮小化の様相が窺われるなどから考慮すると、7世紀代の可能性が高いのではないかと想像されるが、あくまで推測の域を出ないことを断っておく。



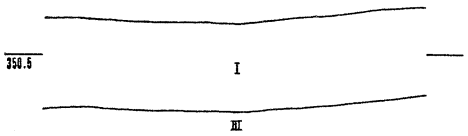
第３図　調査区全体図(1)



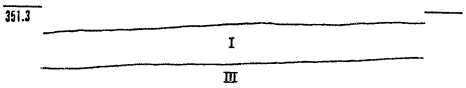
第４図　調査区全体図(2)



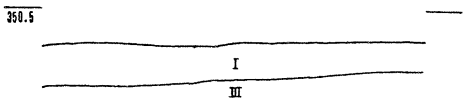
2区サブトレンチ西壁土層



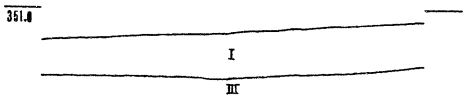
4 区 東 壁 土 層



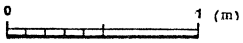
7 区 東 壁 土 層



8 区 東 壁 土 層

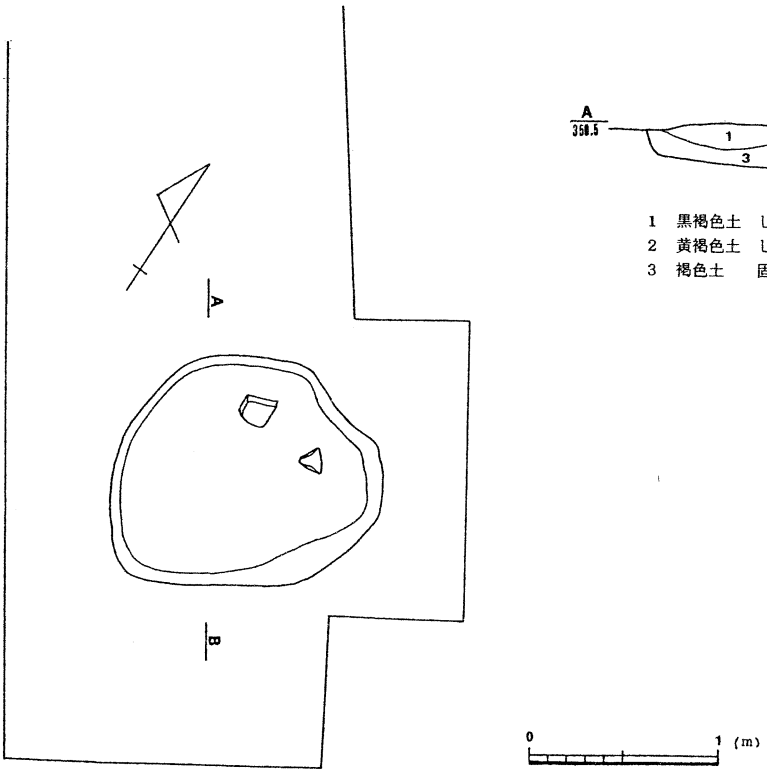


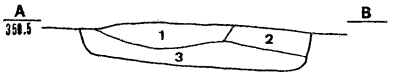
11 区 東 壁 土 層



I　褐色土　しまりなし　耕作土
II　褐色土　しまりあり　V層の土がブロック状に混入
II′　褐色土　しまりあまりない　V層の土が粒子状に混入
III　黄褐色ローム　しまりあり　ソフトローム
IV　暗褐色ローム　しまりあり　ハードロームか
V　明褐色ローム　しまりあり　白色粒含む　いわゆる鹿沼土

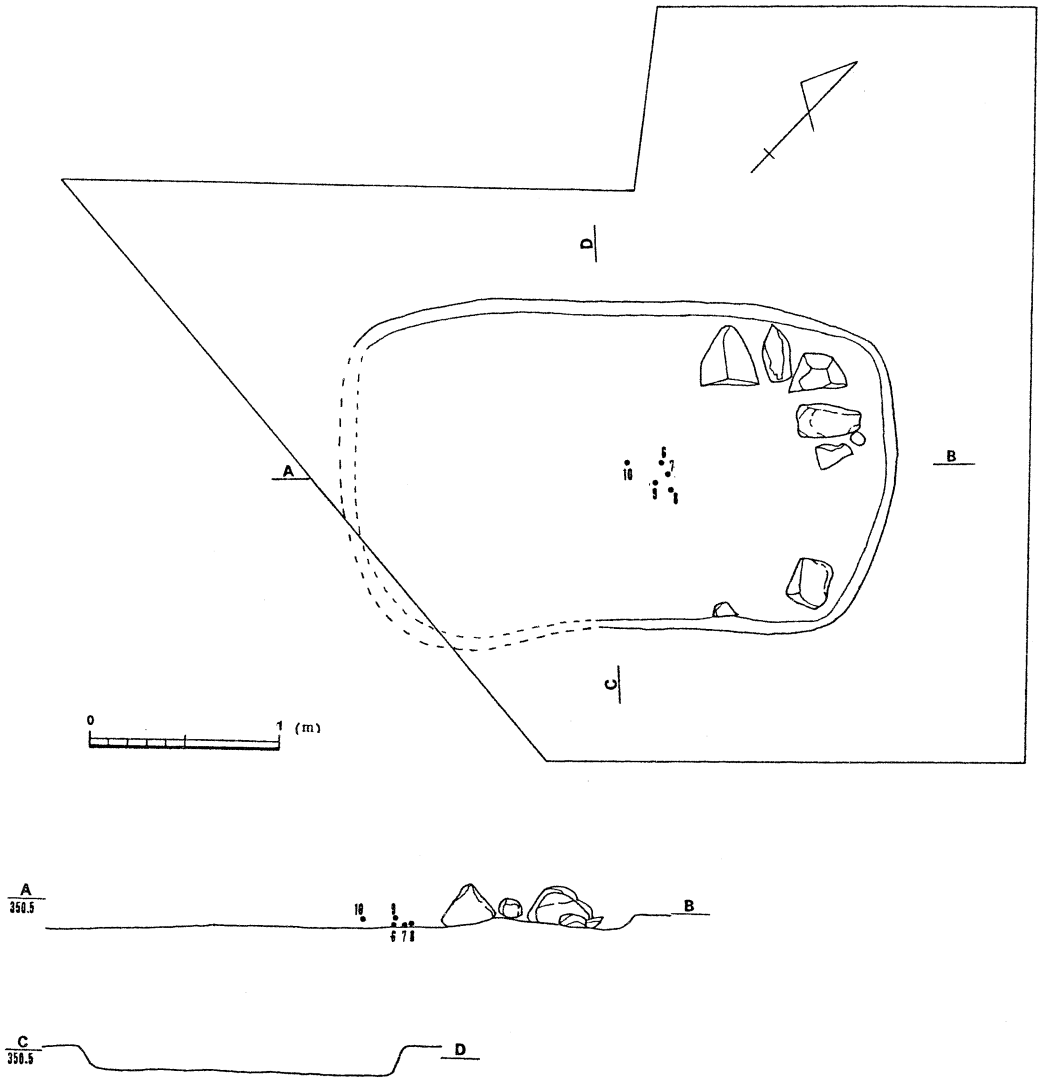
第5図　土層図



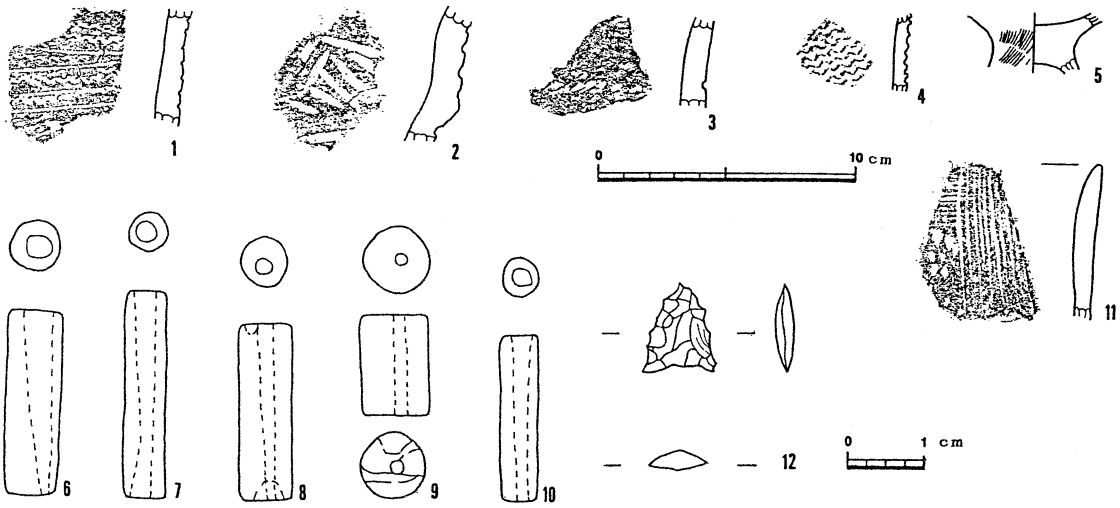


1　黒褐色土　しまりあり　焼土粒含む
2　黄褐色土　しまりあり
3　褐色土　固くしまる

第6図　1号土坑



第7図　1号石室



第8図　出土遺物

第３章　高部宇山平遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村高部字伊勢塚に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曽根丘陵の一角である宇山平と呼ばれる台地上の北端に立地する。

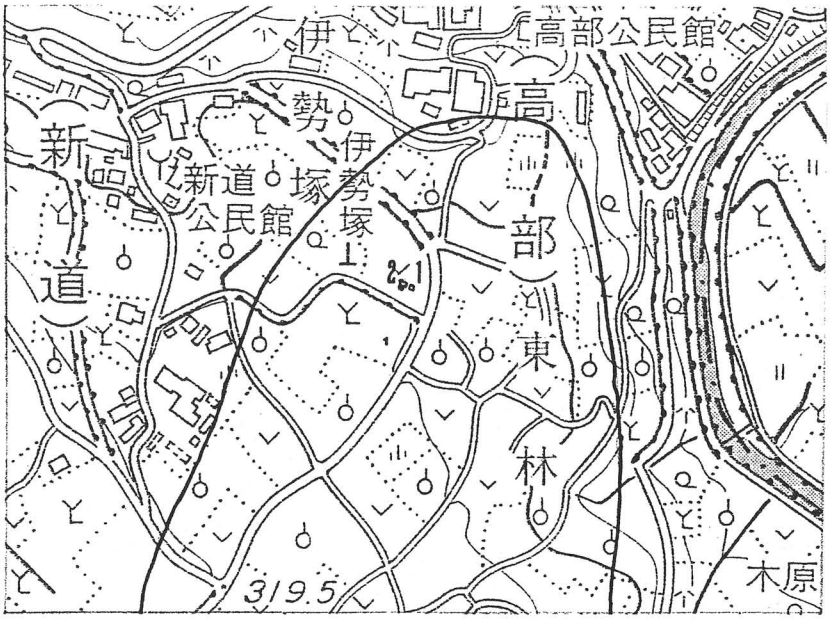
当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は14㎡である。

平成15年７月17日　発掘調査を開始
平成15年７月18日　発掘調査を終了
平成15年７月24日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出
平成15年７月24日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて２×２ｍの試掘坑を２か所設定し、それぞれに１～２区と名づけて掘り下げた。第２区で遺構が発見されたので、調査区を拡張して遺構の検出に務めた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは30㎝前後である。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　明褐色ローム



第９図　調査区位置図（1/5,000）

第3節　検出した遺構と遺物

(1)　第2区の遺構と遺物

1号溝

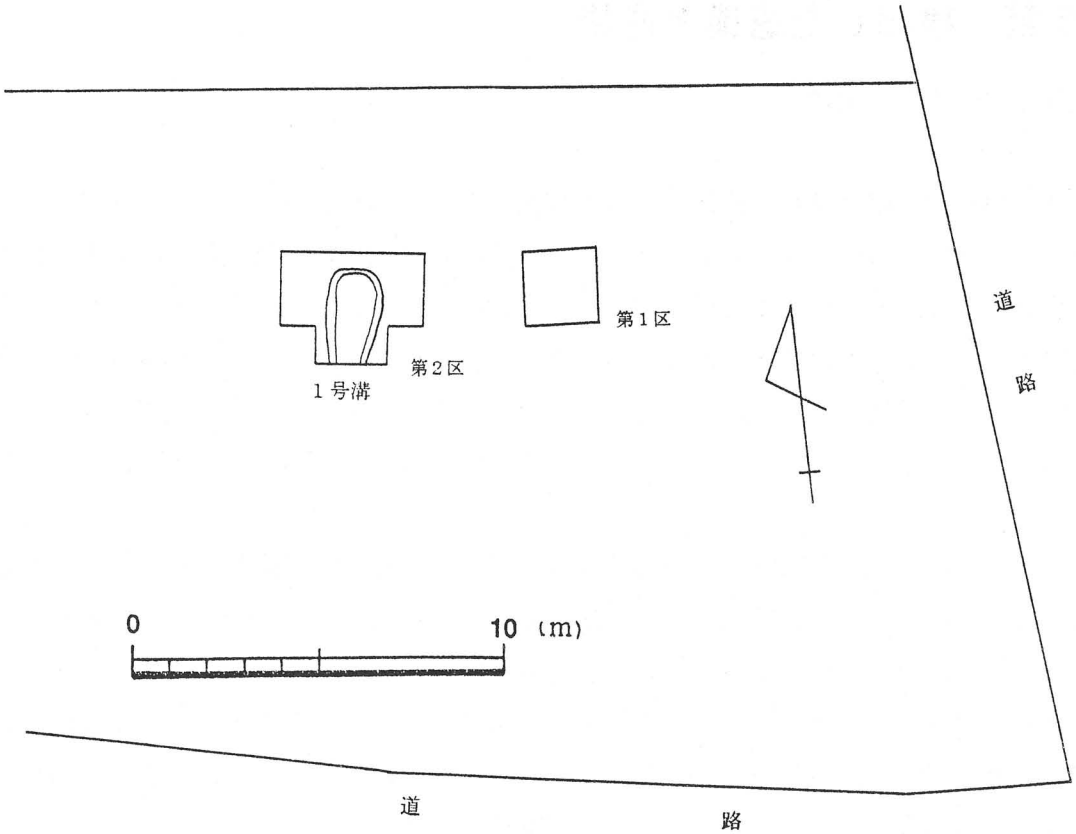
第2区の西側で確認され、西側を2m、南側を1m拡張して遺構の検出に勤め、その結果、南北方向に延びる溝の一部であることがわかった。長さ260cmで西側はさらに調査区外に延びる。北側は調査区内で止まる。最大幅135cm、深さ45cmであり、床面はほぼ平坦である。覆土は黒褐色土、暗褐色土の2層である。出土遺物は、大小各1点、計2点の弥生時代後期の壺が並ぶかのように横倒しされて出土した。大きい方が北側、小さいほうが南側に位置する。いずれも頸部より下は完形であるが、口縁部が欠損している。内面は頸部の幅が狭く、観察できない。

1は底径7.0cm、残存高29.8cm、胴部最大幅は25.4cm。色調は薄褐色、胎土は密である。口縁部は欠損している。外面は頸部に縄文原体を転がし、縄文文様で全周する。胴部はヘラミガキ調整で、胴部の最大幅付近に煤が全周して付着している。

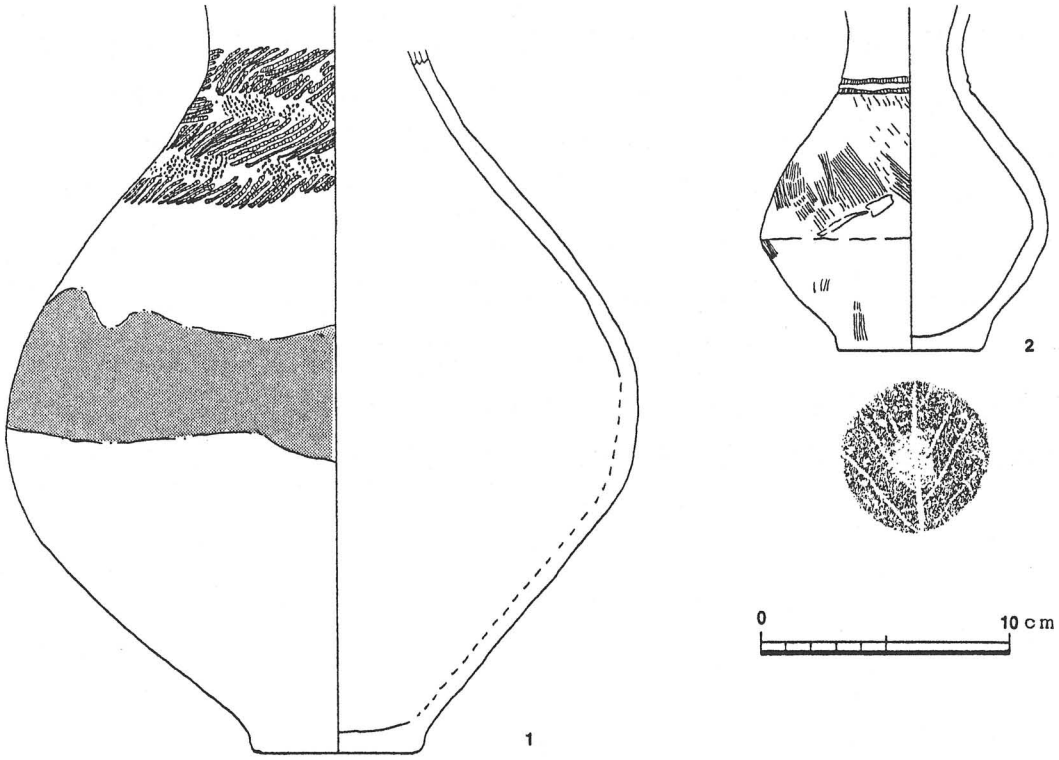
2は底径6.0cm、残存高13.8cm、胴部最大幅は11.6cm。色調は赤褐色、胎土は砂粒を含む。口縁部は欠損している。外面は頸部に2本の押し引きされた平行沈線を巡らし、胴部はハケメ調整で、底部は木葉痕が残る。内面は頸部の幅が狭く、観察できない。

第4節　まとめ

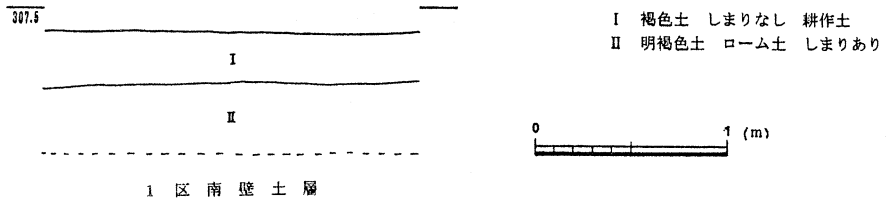
調査の結果、弥生時代後期の溝1条が発見された。大小2個の弥生時代後期の口縁部を欠損した壺が出土した様相からこの溝は、方形周溝墓の一部と考えられる。高部宇山平遺跡では、これまでの数回にわたって行われてきた調査の中で、時期は下るが、古墳時代前期の方形周溝墓群が今回の調査地の道を挟んだ南西側の畑地より検出され、また、調査地の隣接する西側は、伊勢塚古墳と呼ばれる円墳が現存しているなど、調査地付近は、墓域の性格が強い感がある。そして今回の弥生時代にさかのぼる方形周溝墓の発見は、高部宇山平遺跡の弥生～古墳時代の様相を明らかにしていく上での貴重なデータとなり、この時期の宇山平一帯を治める首長の存在を窺わせる発見である。おそらく、そうして代々の首長が力をつけていった結果、5世紀後半になると王塚古墳を築くまでの強大な首長の輩出を現実化していったのかもしれない。



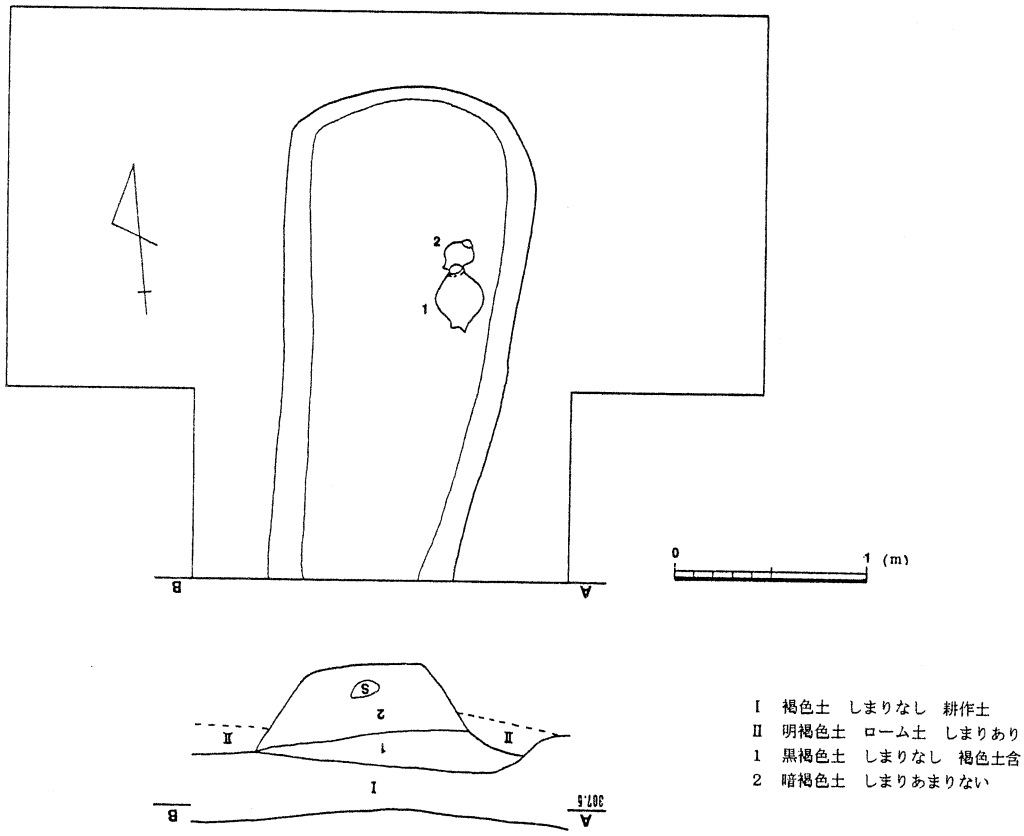
第10図　調査区全体図



第11図　出土土器



第12図 土層図



第13図 1号溝

第４章　駒平遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字駒平に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曽根丘陵の一角である駒平と呼ばれる台地上に立地する。

当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘調査を実施した。調査面積は4.5㎡である。

平成15年７月22日　発掘調査を開始

平成15年７月22日　発掘調査を終了

平成15年７月24日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年７月24日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

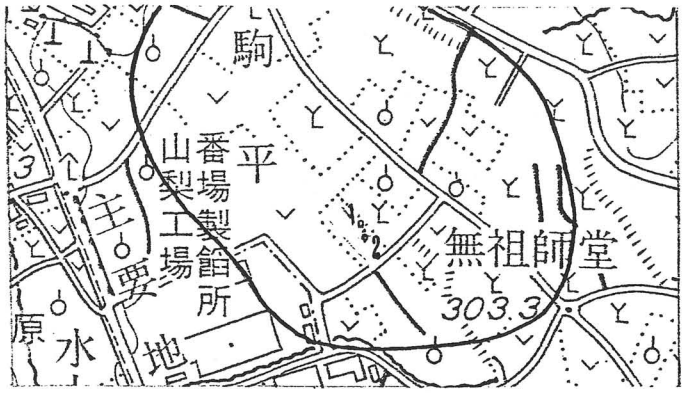
調査方法は、調査対象地に応じて1.5×1.5ｍの試掘坑を２か所設定し、それぞれに１～２区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは20㎝前後である。

第Ⅰ層　褐色土（盛土）　　第Ⅱ層　褐色土（耕作土）

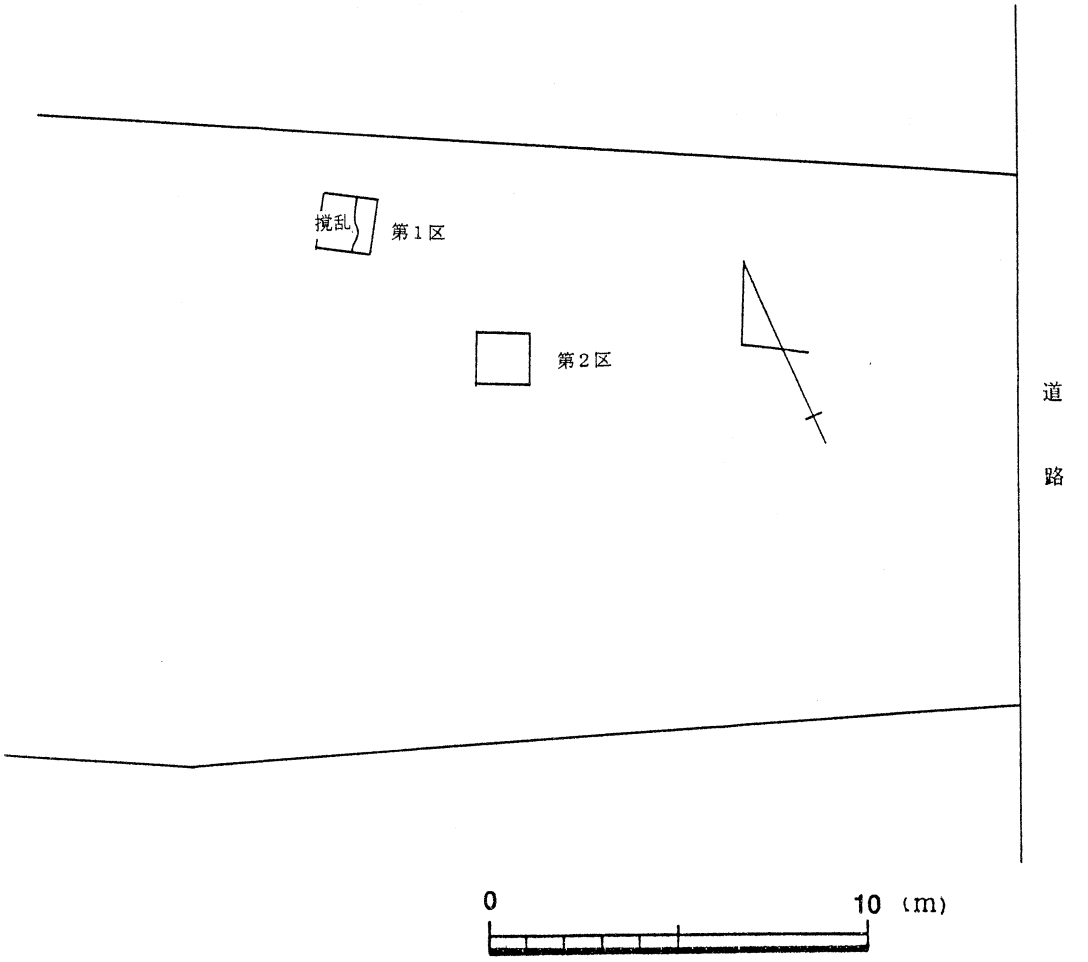
第Ⅲ層　黄褐色ローム

第３節　まとめ

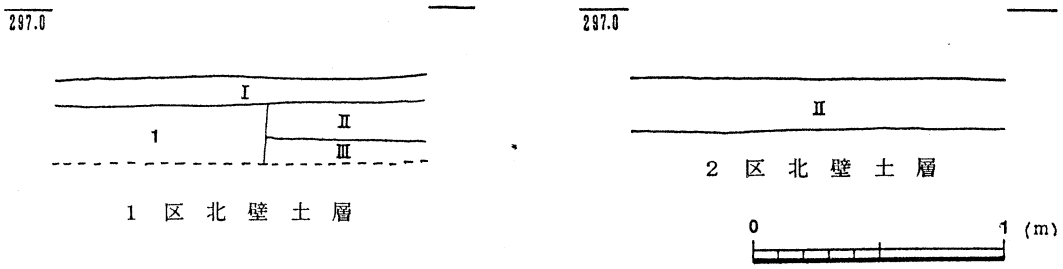
調査の結果、縄文土器片が数点出土したが、遺構は出土しなかった。



第14図　調査区位置図（1/5,000）



第15図　調査区全体図



Ⅰ　褐色土　固くしまる　礫やスレート含む　盛土
Ⅱ　褐色土　しまりあり　ローム土含む
Ⅲ　黄褐色土　しまりあり　ソフトローム
1　黄褐色土　ソフトロームと褐色土が混入　撹乱の覆土

第16図　土層図

第５章　横畑遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字横畑に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から舌状に張り出した曽根丘陵の台地上に立地する。

当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘調査を実施した。調査面積は12㎡である。

平成15年８月20日　発掘調査を開始

平成15年８月20日　発掘調査を終了

平成15年８月21日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年８月28日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて２×２ｍの試掘坑を３か所設定し、それぞれに１～３区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは40～50㎝前後である。

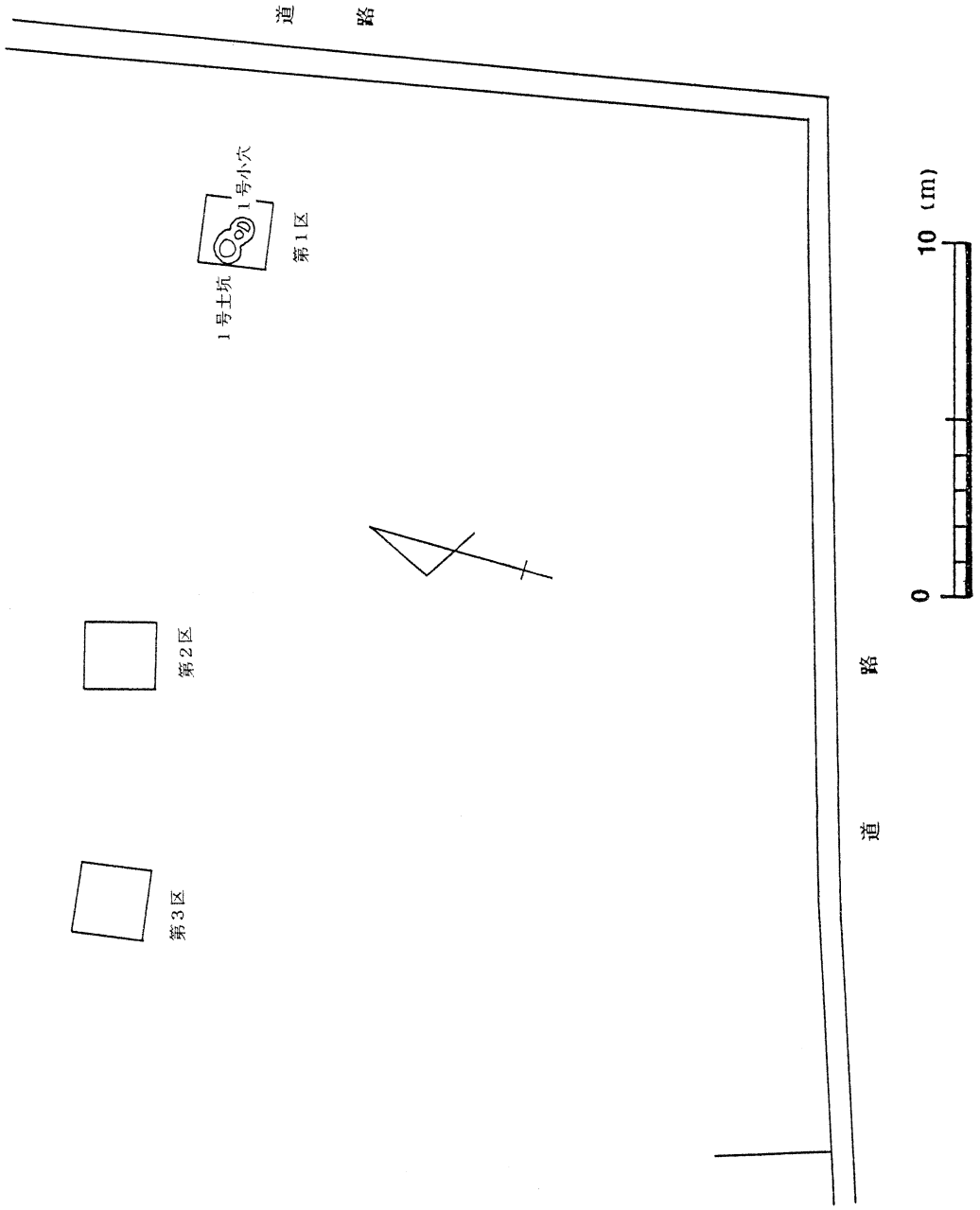
第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　黄褐色ローム

第17図　調査区位置図（1/5,000）

第３節　検出した遺構と遺物

(1)　第１区の遺構と遺物

１号土坑



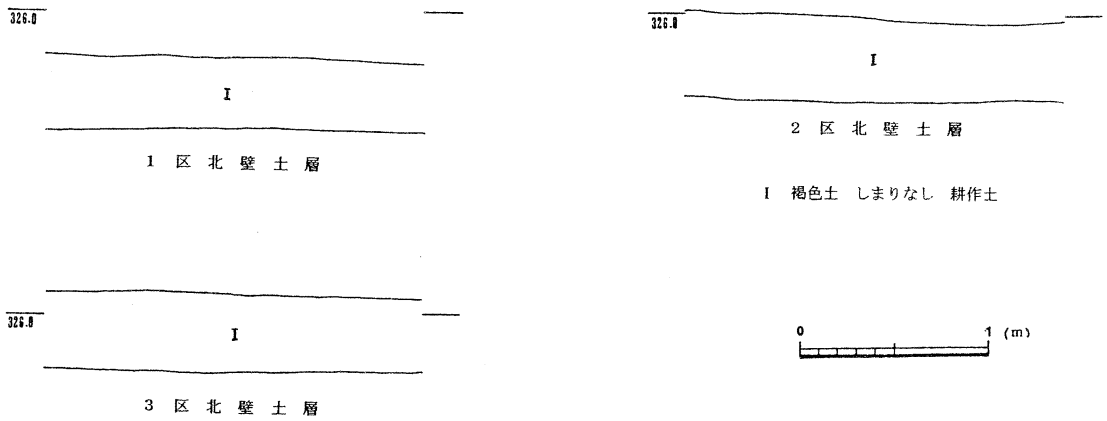
第18図　調査区全体図

第１区の西側で確認され、東側は１号ピットに切られている。平面プランは楕円形を呈する。東西幅90cm、南北幅70cm、深さ20cmを測り、床面はほぼ平坦である。覆土は褐色土の１層である。

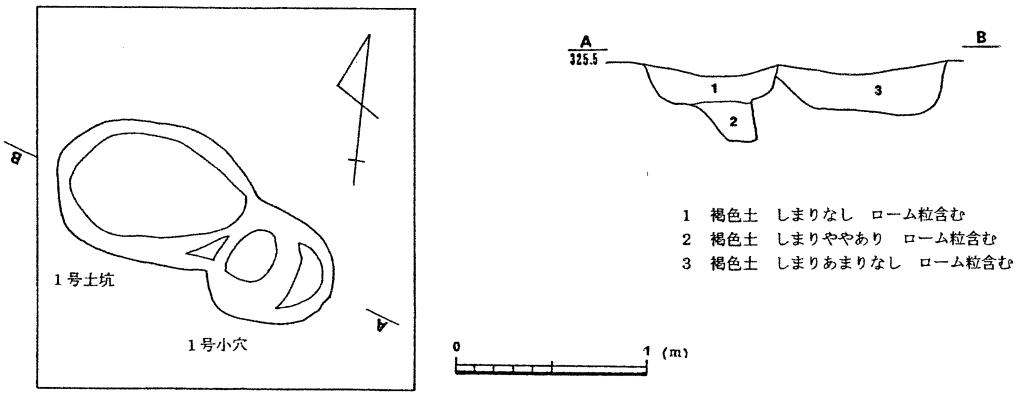
出土遺物は、主に縄文土器の破片が出土している。１は沈線区画内に縄文Ｒ、２は縄文地で、口縁部に２段の刺突文列。３は沈線区画内に押引文。１～２は縄文時代中期後半、３は縄文時代中期前半と思われる。

１号小穴

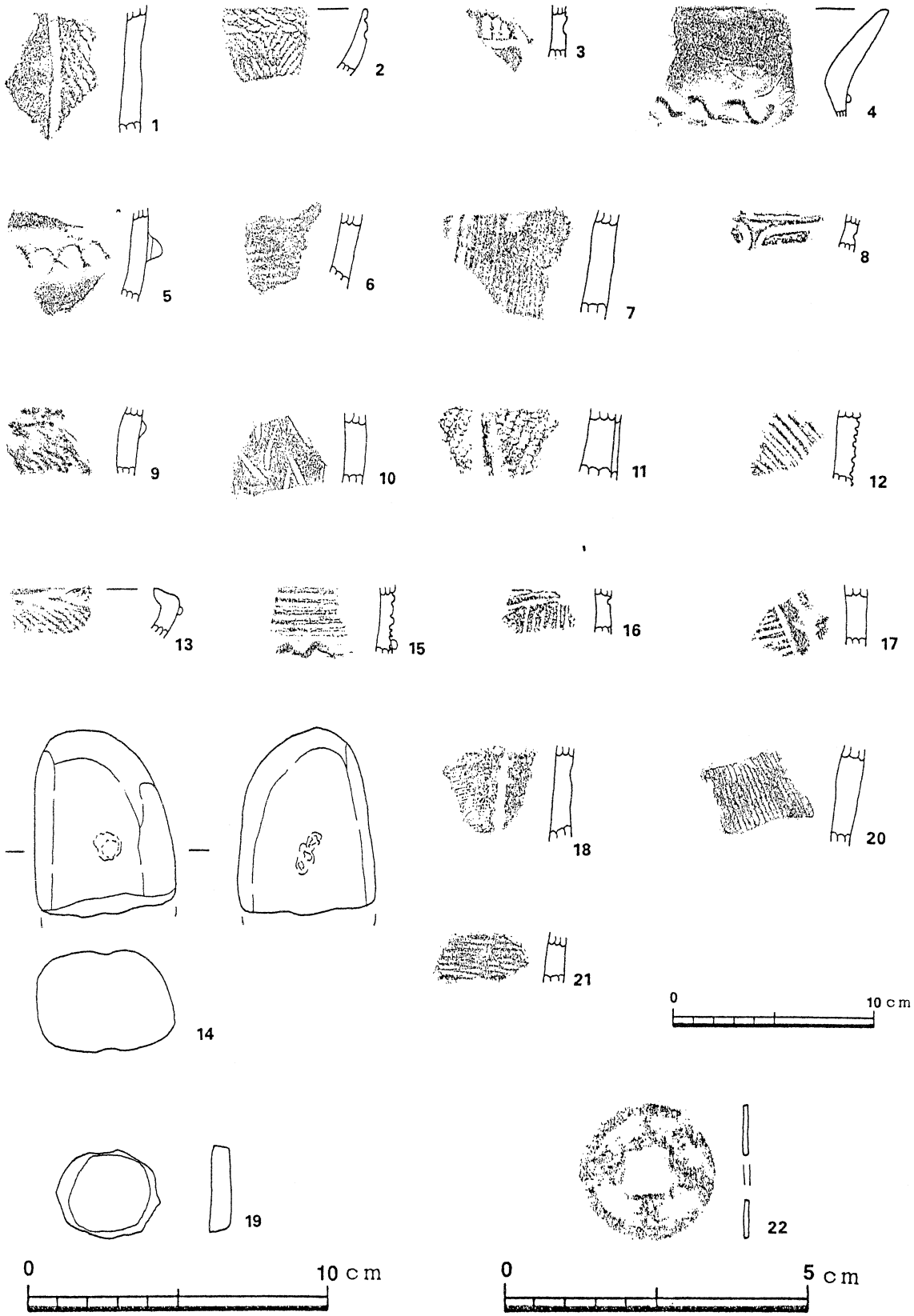
第１区の東側で確認され、ほぼ円形を呈している。東西幅70cm、南北幅60cm、深さ20cmを測る。床面はほぼ平坦で東側にテラス状の段を持つ。覆土は褐色土と暗褐色土の２層である。出土遺物はない。



第19図　土層図



第20図　１号土坑・１号小穴



第21図　出土遺物

遺構外のＩ層より縄文時代中期後半の土器破片が出土した。４は口縁部に蛇行隆線をめぐらす。５は刻み目を入れた隆線。６は縄文。７は条線地に隆線。８は沈線文。９は縄文地に隆線。10はハの字文。

(2) 第２区の遺物

遺構外のＩ層より縄文時代中期後半の土器破片が出土した。11は縄文地に隆線。12は半截竹管による条線。13は縄文ＲＬ。

(3) 第３区の遺物

遺構外のＩ層より14の凹石が１点出土した。現存長9.3cm、幅7.0cm、厚さ5.0cmを測る。安山岩製で両面に窪みが見られる。

(4) 表採遺物

15は条線地に蛇行隆線。16は沈線区画内に条線文。17は条線文。18は沈線区画内に条線。19は土製円盤で長さ2.9cm、幅3.4cm、厚さ0.5～0.7cmを測る。外面は無文である。20・21は須恵器甕の破片で、いずれも色調は灰色、焼成は良好、胎土は緻密。外面は平行タタキメ、内面はナデ調整である。22は寛永通寶で、腐食が激しく文字が読みづらい。

第４節　まとめ

調査の結果、土坑が１基、小穴が１基が出土した。１号土坑から縄文土器の破片が数点出土したが、恐らくは混入品と思われ、時期は１号小穴とそんなに変わらない時期のものと思われる。今回の調査地より南側に隣接した村道大鳥居線建設に伴う調査の際、中世末のものと思われる土坑・ピット群が出土しており、今回の土坑や小穴もそれらと同時期のものではないかと思われる。

また、遺物としては、耕作土中より縄文時代中期後半の土器が出土し、その他、古墳時代後期の須恵器甕の破片や江戸時代の寛永通寶など各種時代の遺物が表採できた。

第６章　前田遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字前田に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から舌状に張り出した曽根丘陵の一角である山裾の台地上に立地する。

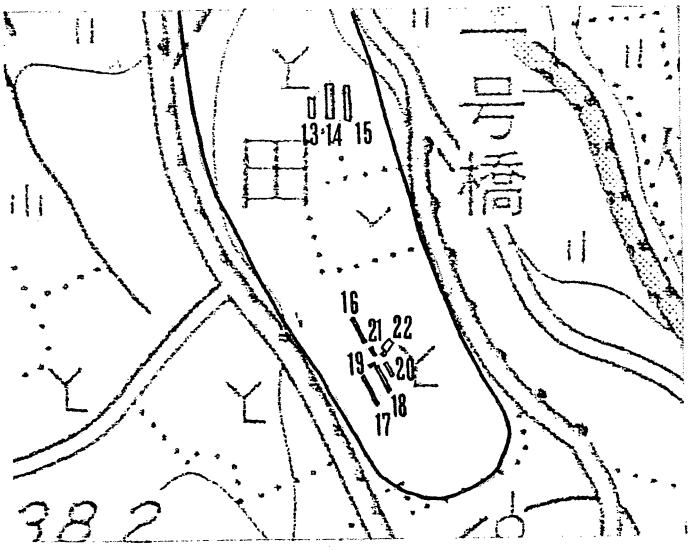
当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、平成14年度より継続して試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は141㎡である。

平成15年11月27日　発掘調査を開始
平成15年12月２日　発掘調査を終了
平成15年12月５日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出
平成15年12月５日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて２×２～16ｍの試掘坑やトレンチを10か所設定し、それぞれに13～22区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは20～50㎝前後である。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　褐色土（Ⅴ層の土がブロック状に混入）
第Ⅲ層　黄褐色ローム　　第Ⅳ層　暗黄褐色ローム
第Ⅴ層　明黄色ローム（いわゆる鹿沼土）



第22図　調査区位置図（1/2,500）

第３節　検出した遺構と遺物

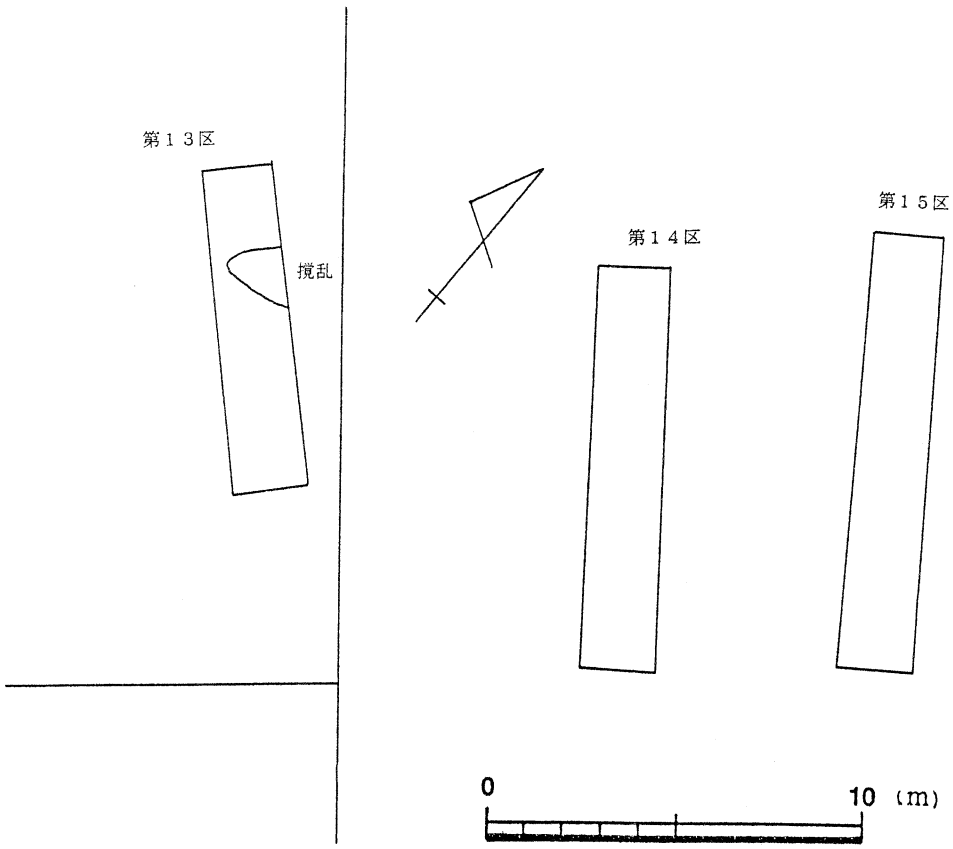
(1)　第18～20区の遺構と遺物

１号溝

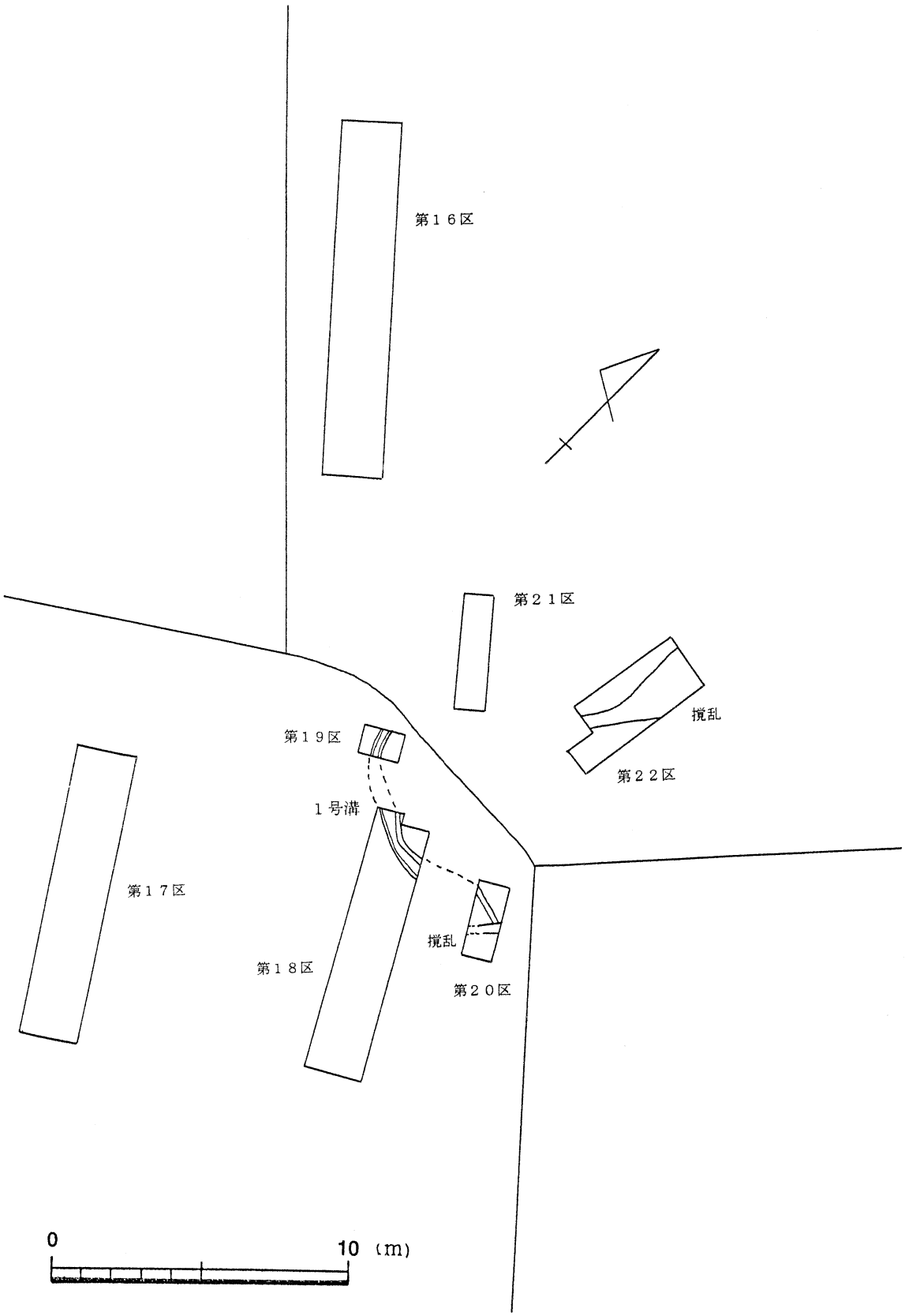
第18～20区にわたり確認され、東西方向に走る溝である。当初、18区で幅35～65cm、深さ15cm前後の溝が確認され、その溝の範囲確認をするため、19区、20区の調査区を設定し、19区では、幅30cm、深さ５cm程度の溝が確認され、20区内では、調査区内の南側にある撹乱で削平を受けていた。20区内での溝の幅は不明であるが、深さは20cm程である。溝の範囲を確かめようと21・22区を設定して掘り下げたが確認できず、古墳の北側及び東側では溝は作られなかったのか、後世の削平を受け、消滅したのかは不明である。覆土は褐色土である。

出土遺物は、18トレンチでの溝の覆土内より須恵器の破片が１点出土した。

本溝は14年度の調査で確認された石室に伴う古墳の周溝と思われる。時期がわかるような副葬品等の出土遺物がないので、年代は不明である。北側の溝が確認できなかったので詳細な規



第23図　調査区全体図(1)

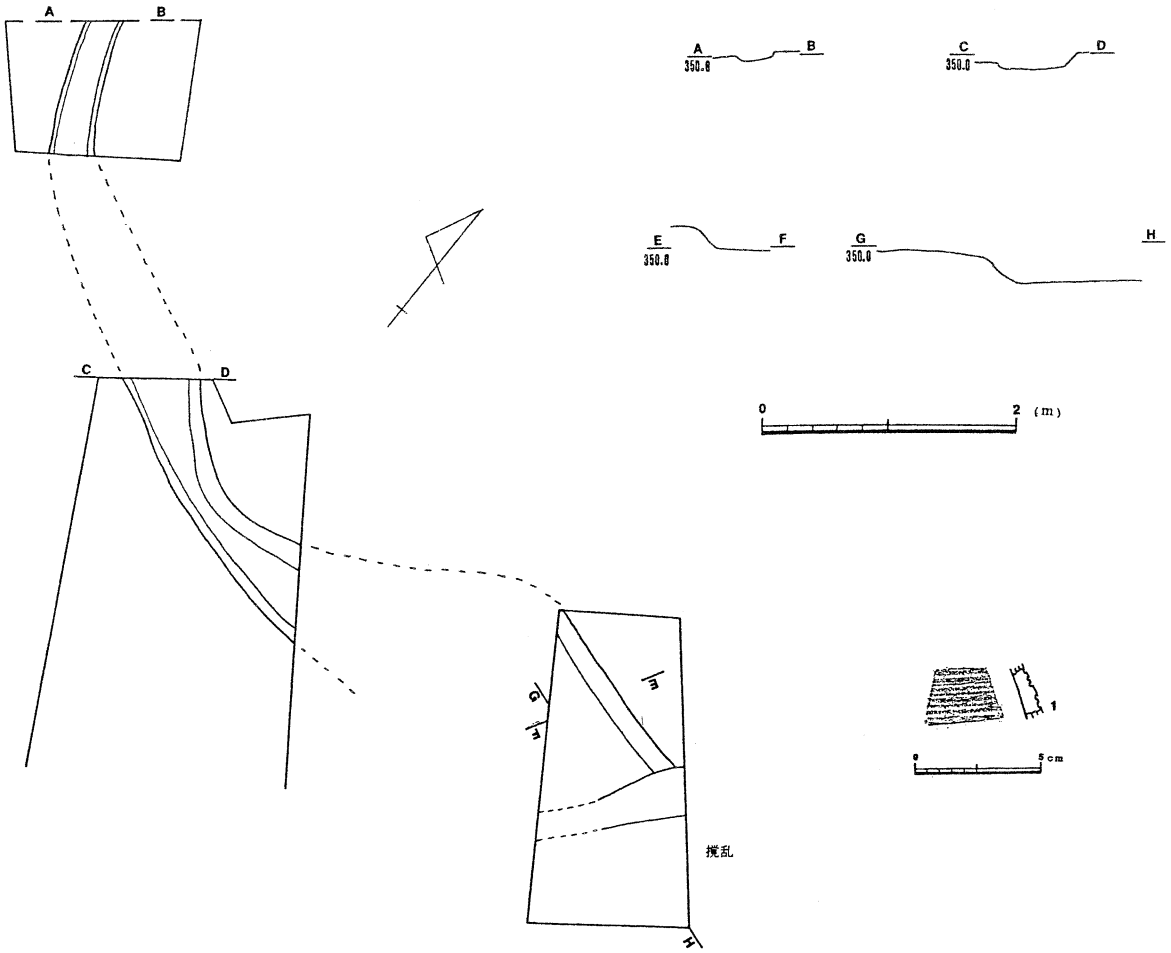


第24図　調査区全体図(2)

模は不明だが、築造当初はおそらく10m前後の円墳で、西側に開口した横穴式石室を主体部とするものだったと思われる。

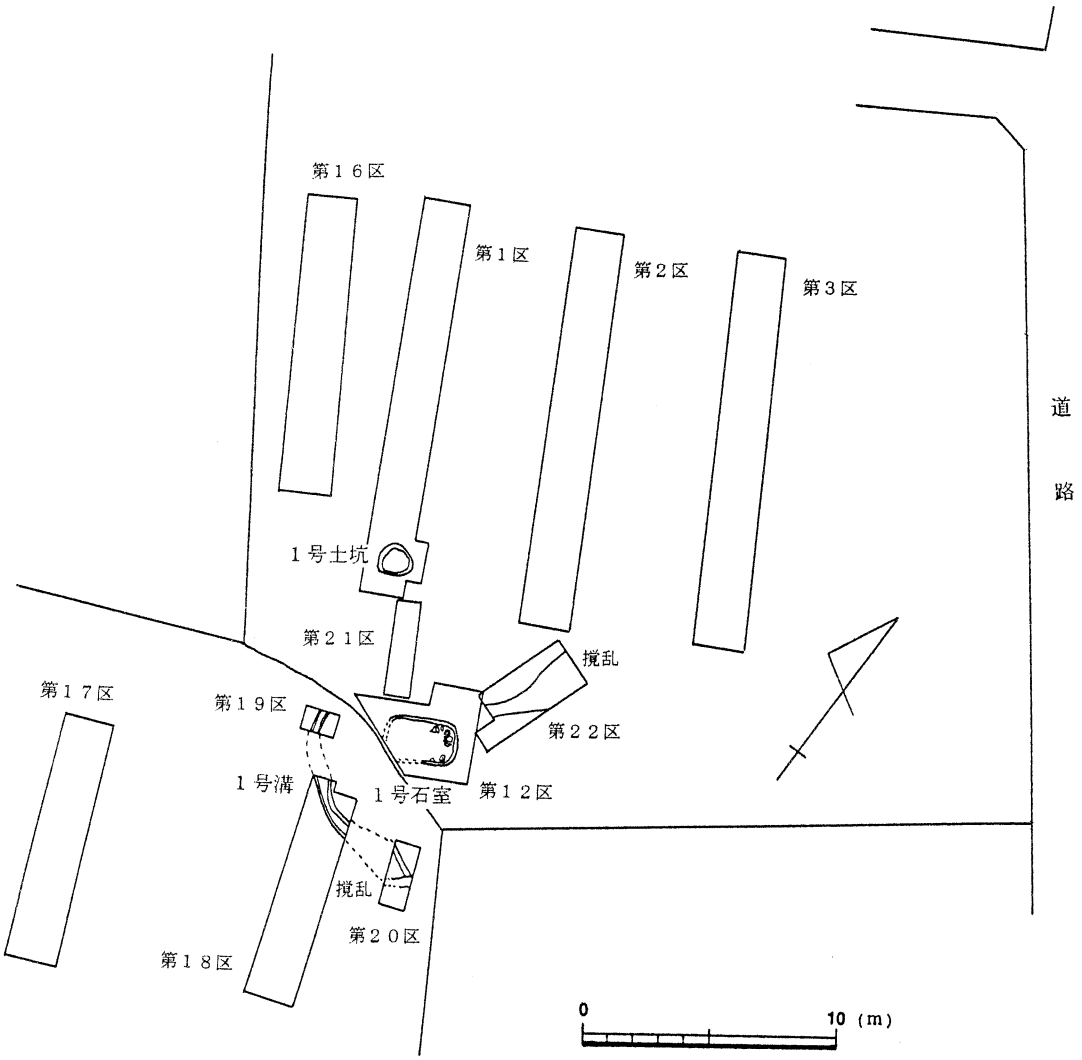
第4節　まとめ

調査の結果、古墳の周溝1条が発見された。この溝は、平成14年度に実施された調査で発見された古墳石室に伴うものと思われる。これらの調査で古墳の全容が解明できるかに思われたが、溝の残存度が悪く、古墳を1周するような形では確認できず、それは溝の一部が残っていたのが確認されたということなのか、それとも北側及び東側で確認することができなかったので、元々、この部分での周溝の掘削が行われなかったのかは、不明である。しかしながら、これまで発掘調査を行う機会がなく、包蔵地ではあったものの詳しいデータがなく、考古学的には、さほど注目されるような地域ではなかった大鳥居地区の山裾地域で、古墳が発見されたことの意義は大きく、前田遺跡の北側にある横畑遺跡でも古墳時代後期の土器が出土しているこ



第25図　1号溝

とから、この周辺のどこかで集落が営まれていたと思われ、古墳時代の豊富村の歴史を語る重要な資料を今回の調査で得た結果となった。



第26図　１号溝・１号石室・１号土坑（14・15年度）

第７章　熊野原遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

東八代郡豊富村浅利字熊野原に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曽根丘陵の台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、試掘調査を実施した。調査面積は164㎡である。

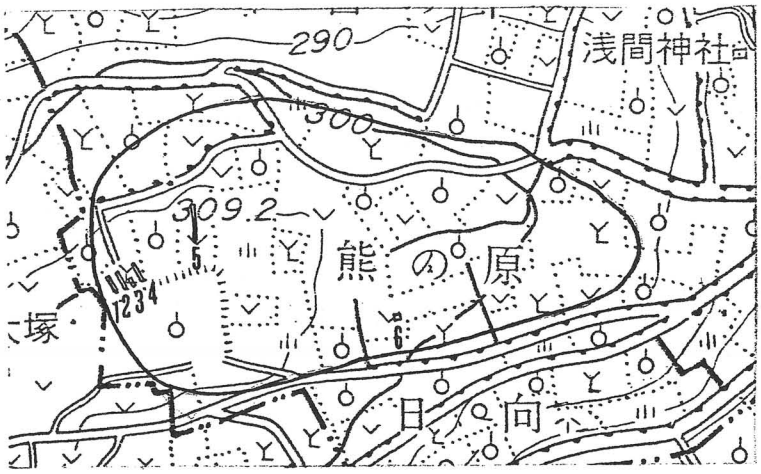
平成16年２月16日　発掘調査を開始
平成16年２月21日　発掘調査を終了
平成16年２月26日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出
平成16年３月15日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて２×２～19ｍのトレンチを６か所設定し、それぞれに１～６区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは30～50㎝前後である。

なお、第６区付近では、第Ⅱ層のロームは見られなくなり、耕作により削平を受けたものと思われる。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　黄褐色ローム（地山）
第Ⅲ層　暗褐色土（地山）



第27図　調査区位置図（1/5,000）

第3節　検出した遺構と遺物

(1)　第3区の遺物

1はⅠ層より出土。色調は橙褐色で、外面は条痕文が施されている。器種は壺か。時期は弥生時代中期前半であろうか。

(2)　第5区の遺構と遺物

1号溝

第5区の中央やや南側で確認され、南北方向に走る溝である。幅120cm前後、深さ60cm。壁面は、南側はほぼ垂直に立ち上がり、北側も急な立ち上がりである。床面は平坦である。覆土は黒色土と暗褐色土の2層である。

出土遺物は、図示できないが、時期不明の土師器底部や土器破片、黒曜石片が各1点ずつ出土した。

2号溝

第5区の中央やや北側で確認され、東西方向に走る溝である。幅115cm、深さ45cm。壁面は、急な立ち上がりを持つ。床面は東側に向かって上がっていく。覆土は黒色土と暗褐色土の2層である。

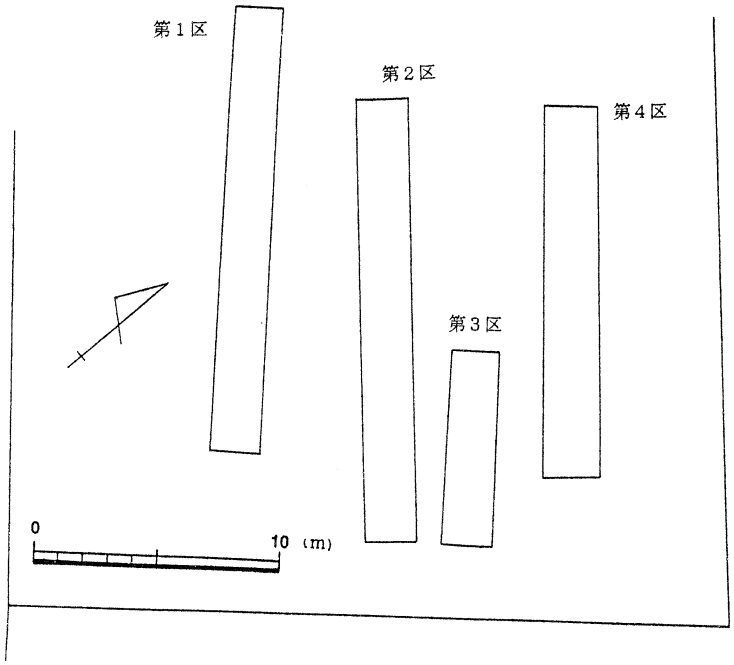
出土遺物は、時期不明の土器破片が1点と黒曜石片が2点出土した。

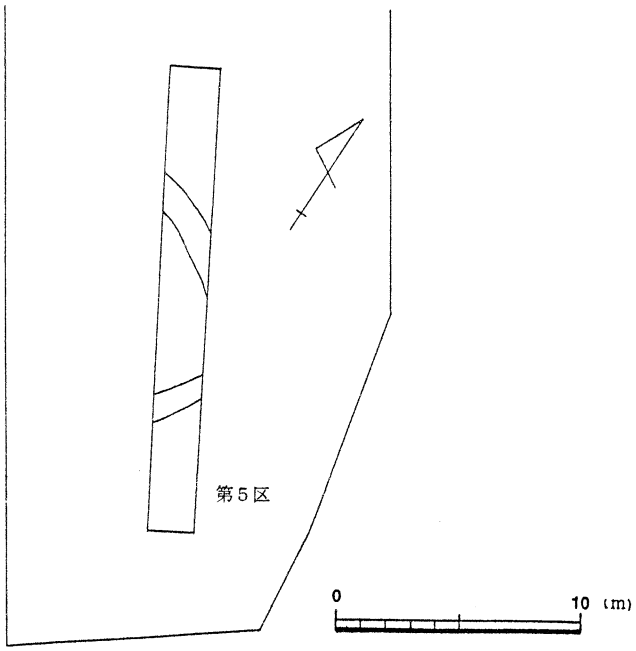
その他、Ⅰ層の耕作土中より5×4cm程の黒曜石片が1点出土している。

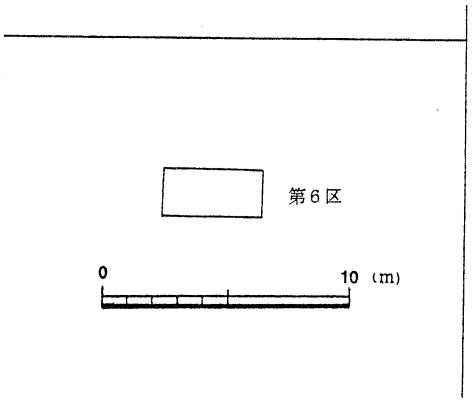
第4節　まとめ

調査の結果、時期不明の溝が2条発見された。2本の溝は、覆土の様相、溝が走る方向等から見て同一遺構と思われ、方形周溝墓または古墳の周溝と思われる。

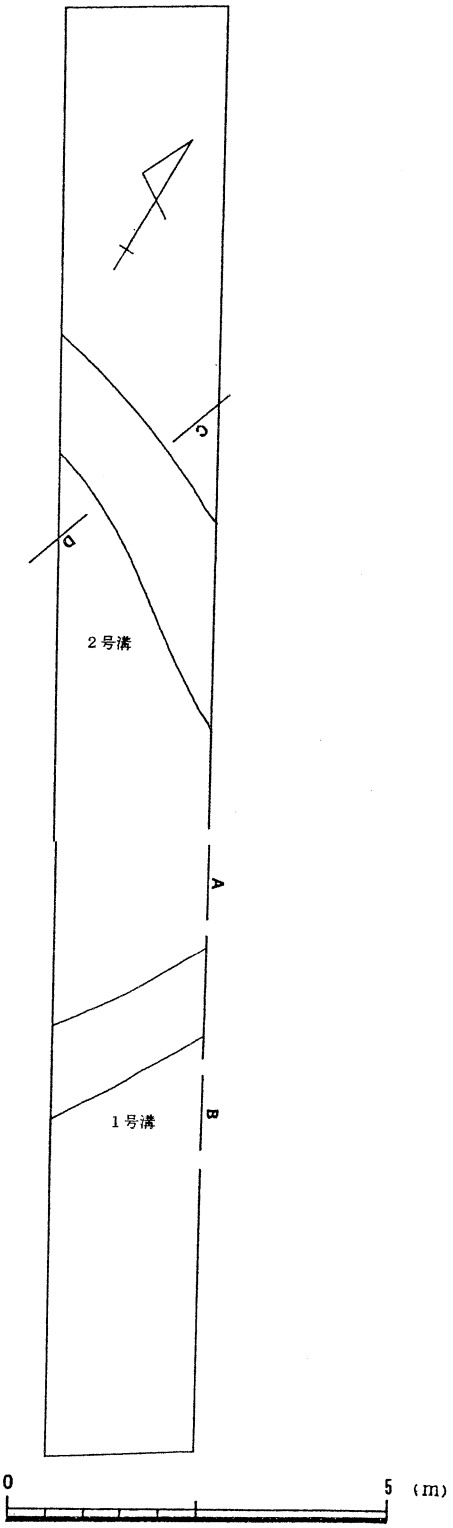
熊野原遺跡の西端は、三珠町との町村境界になるが、三珠町側の境界際には大塚古墳がある。全長約61mの帆立貝式古墳であり、多数の鉄製品を副葬品に持ち、また古墳の周溝などから円筒及び形象埴輪が出土しており、本古墳は、5世紀後半から6世紀初頭の築造とされる。この一帯には大塚古墳を中心としていくつかの古墳が分布しており、北原古墳群と称している。この北原古墳群と熊野原遺跡は、同じ台地の平坦部に立地しており、その範囲は重なる部分が多いのではないかと考えられる。おそらく後世の耕作で削平を受けた古墳もあったに違いなく、今回発見されたこの溝は、時期が不明なために大塚古墳と時期が同一となるかわからないが、いつの時代にか盛土を失った墳墓の周溝と思われる。



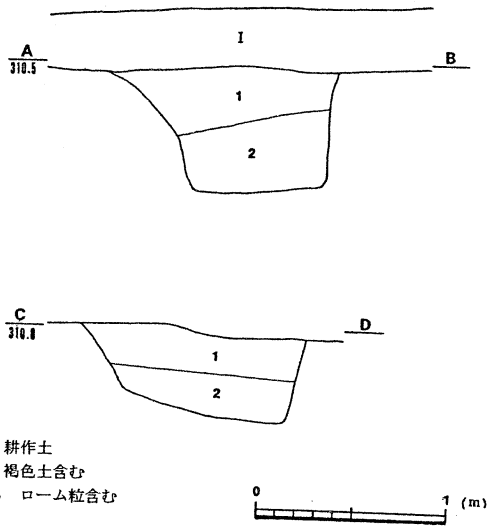


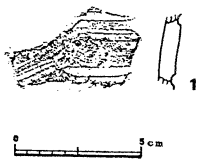


第28図　調査区全体図



第29図　1号溝





第30図　出土土器

第８章　原遺跡・東原遺跡の調査

第１節　調査に至る経過

原遺跡は東八代郡豊富村関原字原他、東原遺跡は東八代郡豊富村木原字東原に所在し、いずれも甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曽根丘陵の台地上に立地する。

両遺跡内で中山間地域整備事業によるスポーツ公園造成事業が計画され、試掘調査を実施した。調査面積は164㎡である。

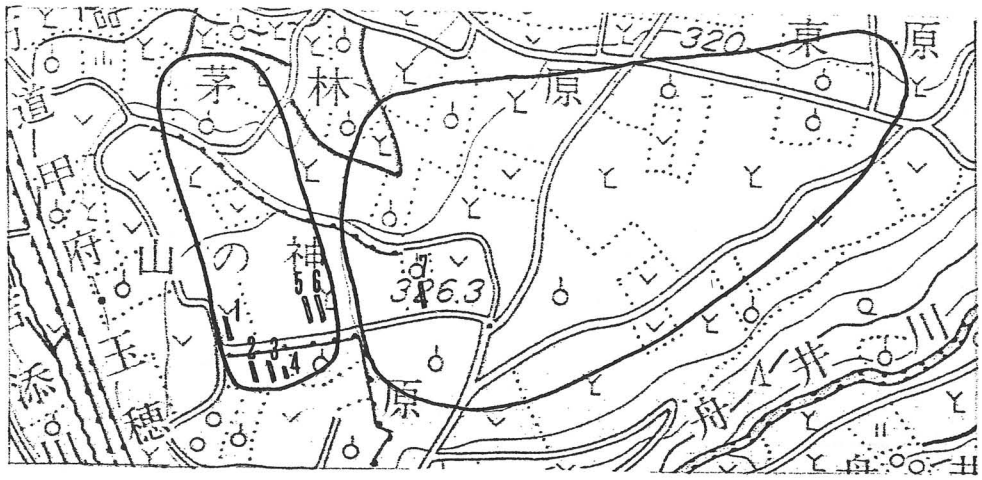
平成16年２月25日　発掘調査を開始
平成16年２月26日　発掘調査を終了
平成16年２月26日　南甲府警察署に遺失物発見届を提出
平成16年３月15日　山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第２節　調査方法及び基本層序

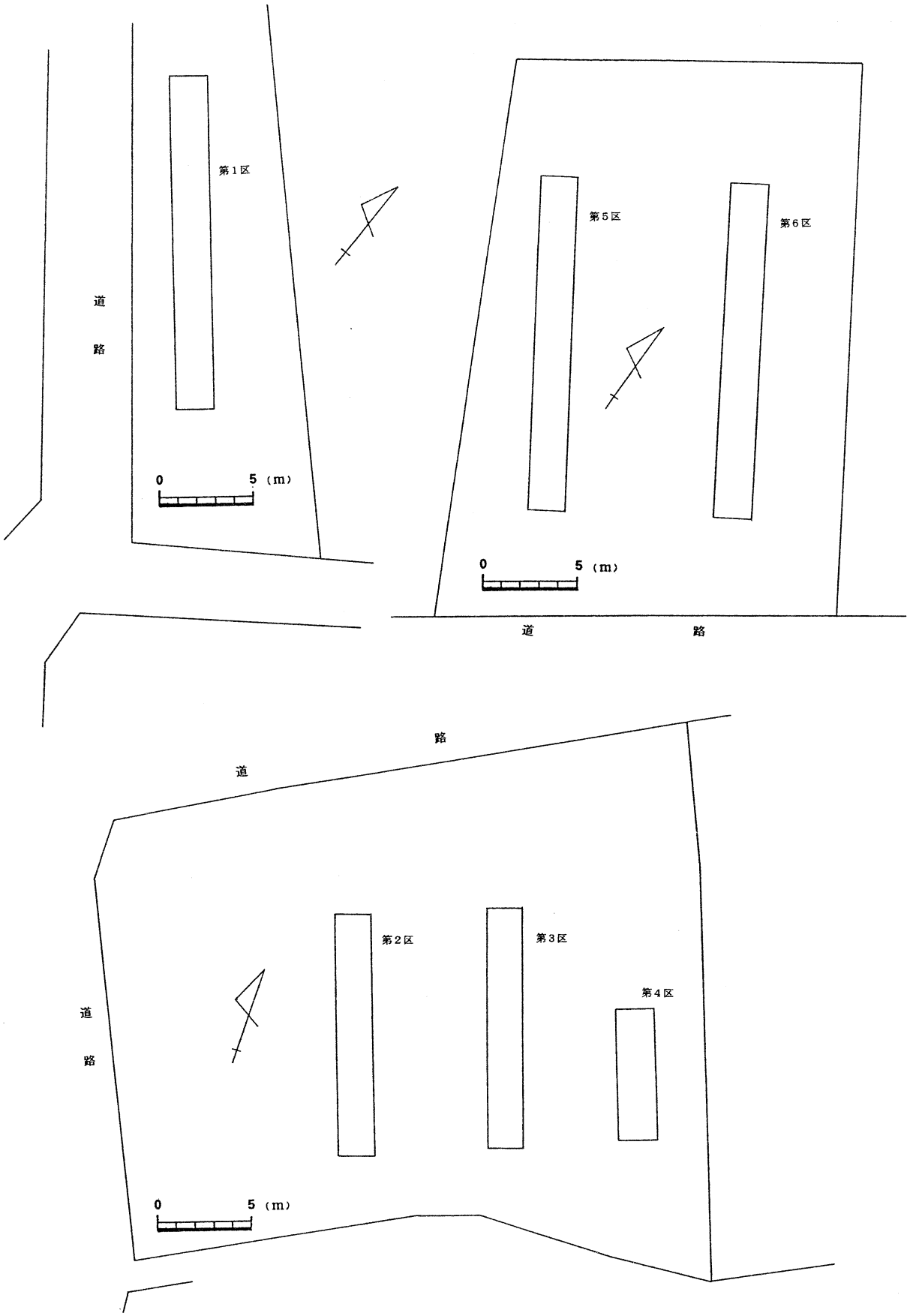
調査方法は、調査対象地に応じて２×２～19ｍのトレンチを６か所設定し、それぞれに１～６区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは30～50㎝前後である。

なお、第６区付近では、第Ⅱ層のロームは見られなくなり、耕作により削平を受けたものと思われる。

第Ⅰ層　褐色土（耕作土）　　第Ⅱ層　黄褐色ローム（地山）
第Ⅲ層　暗褐色土（地山）



第31図　調査区位置図（1/5,000）



第32図　調査区全体図(1)

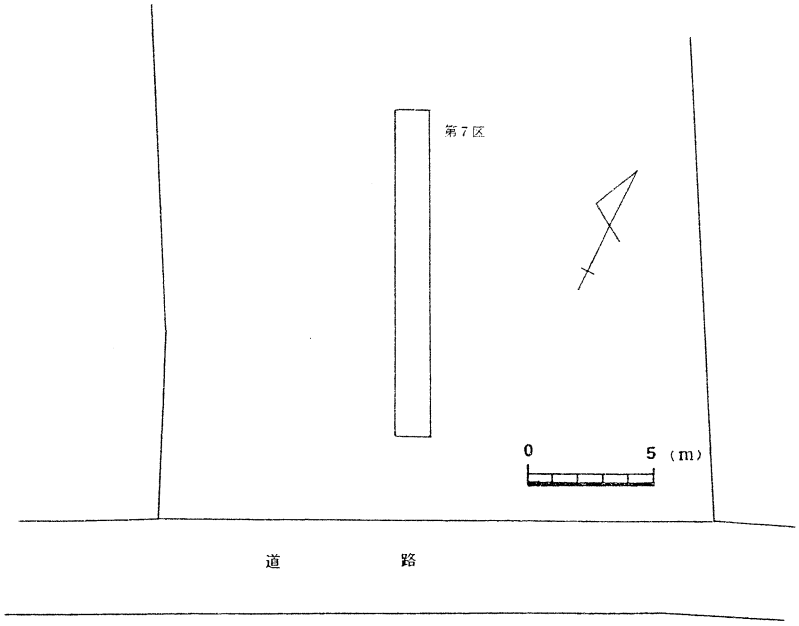
第３節　検出した遺構と遺物

(1)　第５区の遺物

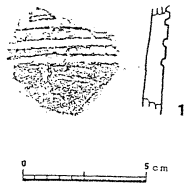
１はⅠ層の耕作土中より出土。縄文時代晩期と思われる土器片で、３本の平行沈線が引かれている。

第４節　まとめ

調査の結果、遺構は発見されず、縄文時代晩期と思われる土器片が１点出土したのみである。



第33図　調査区全体図(2)

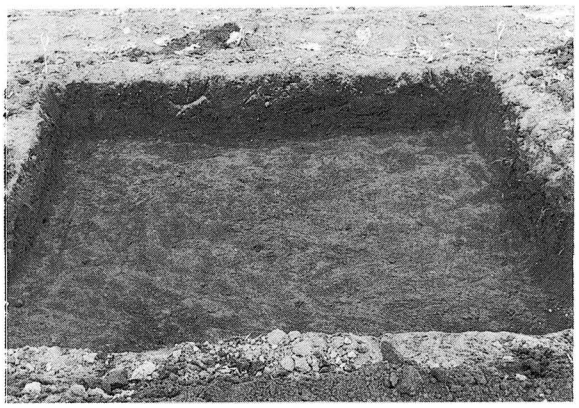


第34図　出土土器

調査前風景(1～3区付近)

調査前風景(4～11区付近)

2　区　全　景



6　区　全　景

1　号　土　坑

1号石室西壁土層

図版二　前田遺跡

1号石室管玉出土状況

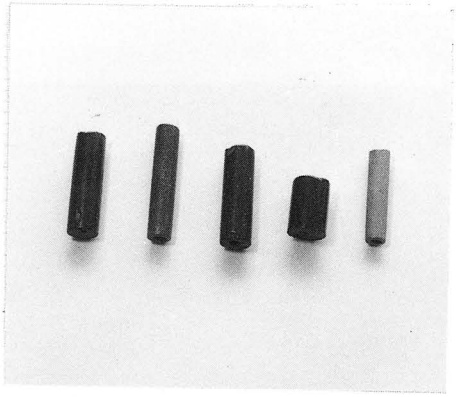
1　号　石　室(北東から)

1　号　石　室(南西から)

1　号　石　室(西から)

1号土坑出土土器

9区出土土器



1号石室出土管玉

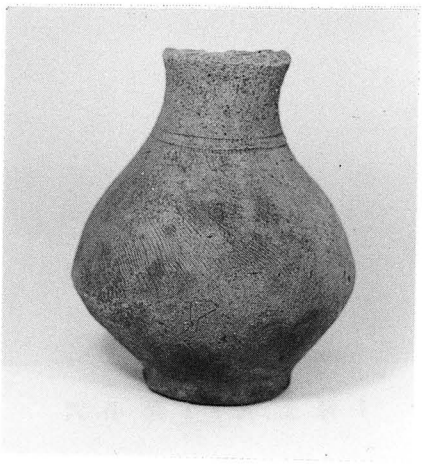
調　査　前　風　景

1号溝土器出土状況

1号溝土器出土状況

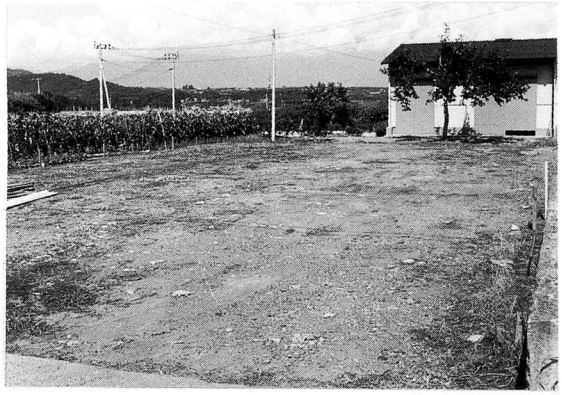
1　号　溝

出　土　土　器



出　土　土　器

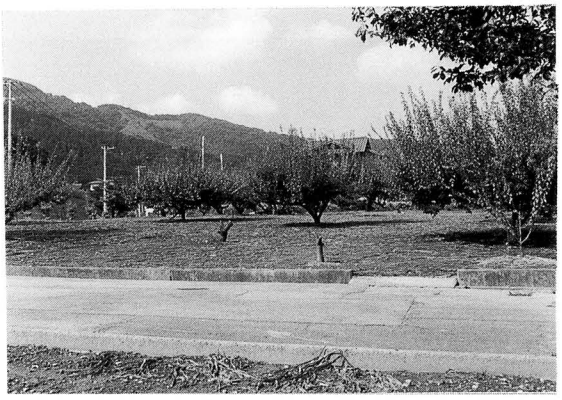
図版四　駒平遺跡・横畑遺跡



調　査　前　風　景

2　区　全　景

（駒　平　遺　跡）



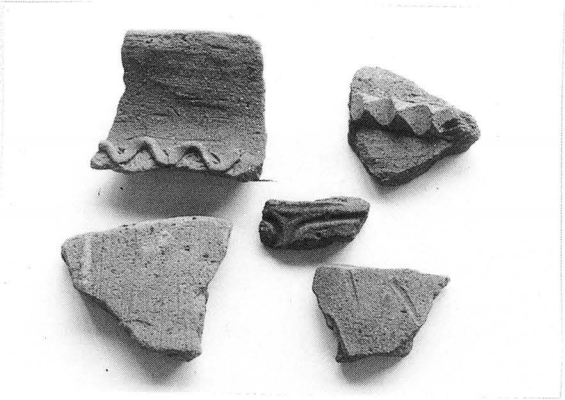
調　査　前　風　景

1号土坑・1号小穴南壁土層

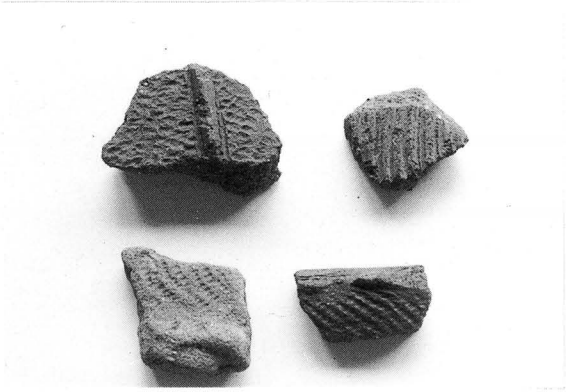
1　号　土　坑　・　1　号　小　穴

1　号　土　坑　出　土　土　器

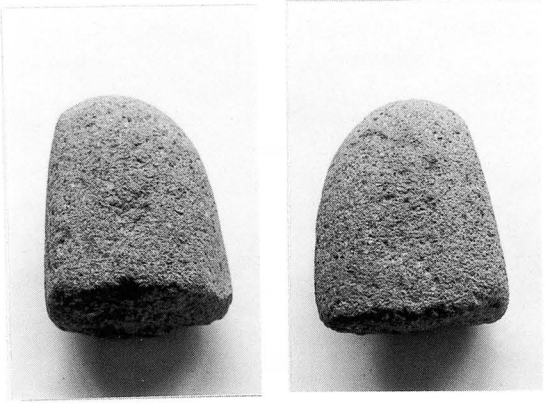
（横　畑　遺　跡）



1　区　出　土　土　器



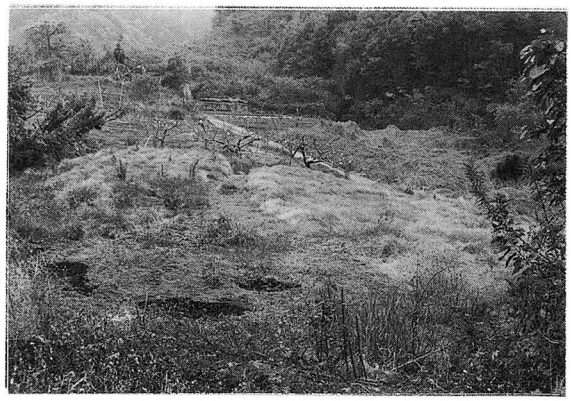
2　区　出　土　土　器



3　区　出　土　石　器

調　査　区　付　近　表　採　資　料

図版六　前田遺跡



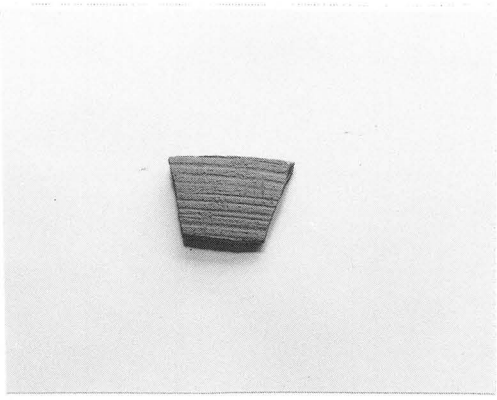
調査前風景(17～20区付近)

調査前風景(13～15区付近)

13　区　全　景

19　区　1　号　溝

18　区　1　号　溝



1号溝出土土器

調査前風景(1～4区付近)
(右側の小山は三珠町大塚古墳)

2　区　全　景

1・2号溝確認状況

1　号　溝　土　層

2　号　溝　土　層

出　土　土　器

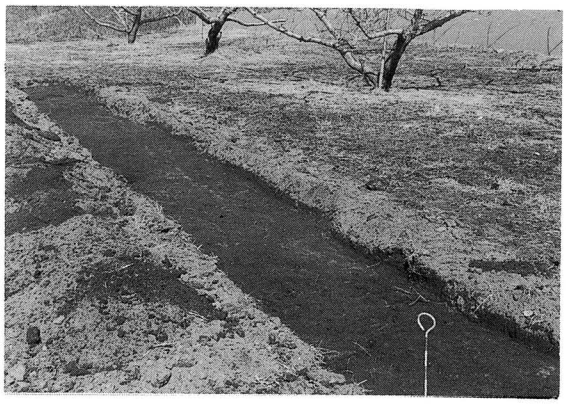
図版八　原遺跡・東原遺跡

調査前風景(2～4区付近)

調査前風景(5～6区付近)

2　区　全　景

5　区　全　景



7　区　全　景

出　土　土　器

報 告 書 抄 録

ふ り が な	へいせい14・15ねんどそんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	平成14・15年度村内遺跡発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	豊富村埋蔵文化財調査報告
シ リ ー ズ 番 号	第9集
編 著 者 名	岡 野 秀 典
編 集 機 関	豊富村教育委員会
所 在 地	〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866 TEL 055-269-2447
発 行 年 月 日	2004年8月31日

豊富村埋蔵文化財調査報告第９集

平成14・15年度村内遺跡発掘調査報告書

発行日　2004年８月31日
発行所　豊富村教育委員会
〒400-1594　山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866
印刷所　株式会社薬袋印刷所
〒400-0043　山梨県甲府市国母2-2-35